週刊 YEARBOOK

1904
明治37年

日録20世紀

11|3
平成10年11月3日発行
(毎週1回火曜日発行)
第2巻第41号 通巻84号
平成10年7月31日第三種郵便物認可
¥560
講談社

森鷗外も参加した
日本軍"脚気大論争"

日本初の百貨店
「三越」誕生!

サイ・ヤング、
メジャー初の完全試合!

[特別企画] 貴重カラー写真公開!
バートン・ホームズが撮った「乃木と旅順」

日露開戦! 旅順の136日

2月8日、ついに日露が開戦！
戦死傷者5万9304人を出した乃木司令部の無策
「巨大要塞」旅順攻略戦136日

大塚徳三郎（元・陸地測量部員）

▲二〇三高地東北角中腹のロシア軍戦死者。爆風で衣服を吹き飛ばされた遺体も見える。

日露両国がついに激突した。世界最強の“陸軍国”との開戦に、国民はあらためて総力戦を覚悟した。二月八日、日本軍は仁川に上陸、朝鮮半島を北上する。圧倒的な火力と強固な陣地によって待ちかまえるロシア軍。日本側死傷者五万九三〇四人という旅順の攻防戦は、日露戦争を象徴する殺戮戦となったのである。

累々たる日本兵の屍　第一回総攻撃の悲惨

明治三七年八月一九日午前六時、乃木希典司令官（五四）率いる第三軍の火砲二八〇門が、遼東半島の南端にある旅順のロシア軍要塞めがけて、一斉に火を噴いた。同時に歩兵部隊が、防備の堅固な盤竜山堡塁と東鶏冠山堡塁の間を突撃、いっきょに要塞中枢に迫る作戦に出る。

「ひとつの堡塁に六〇、七〇トンもの砲弾を撃ちこめば、壊れているに違いない」

立ちのぼる白煙、吹き飛ばされるロシア兵の姿に、攻撃の指揮をとる乃木や、参謀は、そう信じて疑わなかった。

「（砲台前の）黒い棒は何であろうかと眼鏡を取ってみると、それが突撃縦隊の斃死部隊であるのを見てギョッとしたのである。（中略）軍旗をもつ者もあれば、国旗をもっている者もありして、生きているか死んでいるのか、身動きもせずにころがっているのが見えた」（桜井忠温『銃後』）

連隊旗手として旅順攻撃に参加し、その体験を後に記すことになる桜井忠温中尉（二五）が見たのは、微動だにしない敵の要塞前に倒れた日本兵の屍だった。

▲整列した歩兵第8連隊（大阪）の兵士。日露戦争において陸軍は、ほとんどの将兵を戦場に送った。動員兵力は約100万人。その4分の1が旅順戦に参加した。

▶旅順市街。旅順の周囲には、木のない、岩石むき出しの低山がつらなっていた。写真は占領後の撮影。

▶第三軍司令官・乃木希典大将（左）と、参謀長・伊地知幸介少将（右）。多数の将兵を死なせたとして、厳しい批判をあびた。

◎表紙　日清、日露と2度も旅順攻略にあたった乃木大将。　バートン・ホームズ／The Burton Holmes Collection,Department of Art History,UCLA／デジタルハウス（このページ3点および4ページ下も）

2月8日、ついに日露が開戦！
戦死傷者5万9304人を出した乃木司令部の無策
「巨大要塞」旅順攻略戦136日

六日間の猛攻による死傷者は一万五八六〇人。一回目の総攻撃は日本軍の完敗だった。

「旅順口も（中略）砲撃を開始いたし候。いずれ旅順口陥落も近日中には考えおり候。まだ歩兵は戦闘は開始いたさず、いずれ攻撃にて露兵も降伏すと考えおり候」

（一兵士・富田惣三郎の郷里への手紙）

砲撃だけで制圧できると、当初多くの兵士が考えていたが、何より旅順攻撃を楽観視していたのは陸軍首脳だった。大本営も第三軍司令部も、旅順が二五キロにわたる防御線上に七〇〇門の大砲を配備し、約四万二〇〇〇人の兵士が守備する強力な要塞であることを知らなかった。

二月八日、日本の連合艦隊が旅順港外でロシア艦隊を攻撃し、日露の戦端が開かれた。陸軍は朝鮮半島を北上、五月一日には、鴨緑江渡河作戦でロシア軍を圧倒する。続く五月二六日、大連北方における南山の戦いでも優位を占めたが、早くもここで、要塞戦に対する日本の未熟さが露呈した。防御施設の前で動きが止まる日本兵を、ロシアの新兵器・マキシム式機関銃が次々となぎ倒した。この戦いでの死傷者は四四〇〇人、大本営はその報告を受け、数がひとケタ違うのではと疑ったと言われる。

失敗を教訓にしない代償は、旅順攻略戦で大規模に支払わされることになる。

なぜ旅順攻略なのか 二〇三高地だったのか

旅順港内にひそむロシア艦隊を撃滅すべく、日本海軍は五月から、挑発、港口の機雷封鎖など、さまざまな手を試みた。打開策として陸上からの旅順攻めを決めたのは五月二九日。その責任者が、日清戦争で旅順攻撃を指揮した乃木だった。

「海を越えて戦った日本軍にとって、↖

補給路を確保すること、すなわち制海権を握ることが、勝利、少なくとも負けないための絶対条件になります。それには、バルチック艦隊が合流する前に極東のロシア艦隊を無力化する必要がありました。ロシア艦隊が旅順から出てこない以上、旅順攻略以外に道はなかったのです」

日本が旅順攻略を至上命令としたと語るのは、『日露戦争と日本軍隊』の著者で茨城大学名誉教授の大江志乃夫氏だ。

ところが、陸海軍共同作戦には戦略のズレがあった。海軍としては、全要塞が陥ちなくても、敵艦を砲撃できる二〇三高地さえ占領すれば目的は達せられる。

一方、陸軍、特に乃木司令部が策したのは、要塞の完全占領だった。自説に固執する乃木は正面攻撃を続け、一〇月二六日からの二回目の総攻撃でも三八三〇人の死傷者を出す。

バルチック艦隊の東航にあせる海軍からは、哀願にも似た二〇三高地攻めの要請が繰り返され、乃木には「兵を旅順の埋め草にしている」と非難が殺到。辞職や自決をうながす手紙が、約二四〇〇通も届いた。

無能・無策の司令部と戦死者一万五三九〇人

一一月二六日に開始された第三回攻撃の途中で、乃木はついに攻撃方向を転換、二〇三高地占領に主攻撃目標をおく決断をする。しかし、苦戦は続き、新着の第七師団は、たった二日間でほぼ壊滅状態となった。たまりかねた大山巌満州軍総司令官（六二）は一二月一日、児玉源太郎総参謀長（五二）を旅順へ送りこみ、直接指揮をとらせた。

態勢を立て直した第三軍が、激闘のすえに二〇三高地山頂を占領したのが一二月五日。旅順が陥落したのは翌明治三八年一月一日だった。旅順攻略戦における日本軍の死傷者は、五万九三〇四人（うち戦死者一万五三九〇人）に達した。

巷では、この戦争でみずからも息子二人を失った乃木を思いやる、「独り息子と泣いてはすまぬ。二人なくした方もある」という歌が口ずさまれ、歌人・与謝野晶子の「君死にたまふこと勿れ」（明治三七年九月）や、作家の大塚楠緒子が発表した「お百度詣」（明治三八年一月）などの反戦詩が、民衆の心を引きつけた。

「堅固な要塞に無意味な強攻を繰り返した乃木司令部の無能と無策は、厳しい批判に値します。第三軍の参謀は、砲弾の飛んでこない安全な場所で作戦計画を立てるのが当然とされ、実は、伊地知幸介参謀長らは敵情さえ正確に把握していなかった。伊地知をはじめとする乃木の部下、いわば高級指揮官の官僚的体質も、大勢の兵士を死に追いやる原因でした」（大江氏）

しかし、これで戦いが終わったわけではなかった。乃木率いる第三軍は疲れを癒す間もなく、日露戦争最大の危機と言われる黒溝台の戦い（明治三八年一月）、次いで奉天会戦（同二～三月）で、再び激闘を繰り広げるのである。

▲明治38年1月5日、水師営会見後の記念撮影。中列左から、レイス参謀長、乃木大将、ステッセル将軍、伊地知参謀長。「日露戦役写真帖」

▲二〇三高地の日本軍待機陣地。斜面のロシア側を掘り下げて防御とし、銃弾を防いでいる。

旅順要塞攻略戦関係図

注：↓は日本軍のおもな攻撃方向 ●はロシア軍のおもな堡塁

至大連　水師営　二〇三高地　ロシア軍の主要防御線　椅子山堡塁　松樹山堡塁　二竜山堡塁　望台　盤竜山堡塁　東鶏冠山堡塁　旅順新市街　旅順旧市街　西港　黄金山　老虎尾半島　黄海

日露戦争略年表（明治37年）

2月8日　海軍、旅順のロシア艦隊を攻撃。陸軍先遣部隊は仁川に上陸。

2月10日　日本、ロシアに宣戦布告。

2月24日　第1回旅順港閉塞作戦。

5月1日　鴨緑江の会戦。第1軍が鴨緑江を渡河、九連城を占領。

5月15日　戦艦「初瀬」「八島」などが触雷・沈没。海軍、主力艦の3分の1を失う。

5月26日　南山の戦い。第2軍が遼東半島の南山を占領、ロシア軍を南北に分断。

6月15日　得利寺の戦い。第2軍が、旅順救援のため南下したロシア軍を撃退。

6月20日　満州軍総司令部を編成。総司令官・大山巌、総参謀長・児玉源太郎。

6月30日　第4軍を編成。陸軍、北上の態勢をほぼ整える。

8月10日　黄海海戦。連合艦隊、旅順のロシア艦隊を破る。

8月14日　蔚山沖海戦。第2艦隊、ウラジオストクのロシア艦隊を撃破。

8月19日　第3軍、第1回旅順総攻撃。

9月4日　日本軍、遼陽を占領（遼陽会戦）。

10月10日　沙河会戦。日露両軍の死傷者約6万人。両軍に決定力なく、対峙に入る。

10月14日　バルチック艦隊がリバウ軍港を出港、極東へ向かう。

10月26日　第3軍、第2回旅順総攻撃。

11月26日　第3軍、第3回旅順総攻撃。

12月5日　第3軍、二〇三高地を占領。

12月31日　第3軍、松樹山を占領。旅順攻略戦、ほぼ完了。

「戦時画報」

▲遼陽戦勝利を祝う、東京市街鉄道の電飾電車。

文藝春秋提供

▲奉天に集まった陸軍中枢。左から、黒木第1軍司令官、野津第4軍司令官、山県陸軍参謀総長、大山満州軍総司令官、奥第2軍司令官、乃木第3軍司令官、児玉満州軍総参謀長、川村鴨緑江軍司令官。

日露戦争中の患者二一万人、死者二一万七八〇〇人！
原因は「栄養障害」か「細菌による伝染病か」
森鷗外も参加した日本軍“脚気大論争”

松田誠提供

▲明治21年に日本初の医学博士となり、その後、海軍の兵食改良で脚気予防に成功した高木兼寛。明治39年、アメリカで三男の舜三と。

日露の大激戦の一方で、日本軍の命運を左右する大激論が陸海軍の間でたたかわされていた。陸軍兵士の間で脚気が蔓延し、三万人近くが死亡するという異常事態が起こっていたのである。脚気は「細菌による伝染病」か、あるいは精白米の過剰摂取による「栄養障害」かという大論争が繰り広げられ、「細菌説」の論客にはあの森鷗外がいた。

陸軍で罹患者多数 海軍ではほぼ皆無

明治三七年二月、「皇国の興廃」をかけ日露戦争に突入した日本にとって、軍事や財政以外に勝敗の帰趨を左右する大きな難問が横たわっていた。

「旅順攻撃の時（中略）外国人は、『日本人は酒に酔うて戦争をしている』と見なしたのであります。足がひょろひょろしている。足がひょろひょろしているのは酒を飲んだのではないのであります。みな脚気に罹っておったために、歩行蹣跚としておったのである」（山根正次『脚気の研究について』）

近衛師団の軍医として、この年八月末からの遼陽戦に従軍した北原信明（当時・二九歳）も、こう回想している。

「（脚気のため）落伍して街道を三々五五よろけながら杖をついて歩いてゆく兵隊を見て、わしはびっくりしたなあ」

負け戦だったら、彼らはみな玉砕したに違いない、というのである。

脚気患者の大量発生は、日露戦争に限ったことではなかった。

日清戦争、日露戦争の陸海軍別脚気発症の実態は、次のようなものだった。日清戦争に参戦した陸軍の戦死者は九七七人、戦傷死者は二九三人だった。これに対し、戦病死は実に二万一五九人、また、死にはいたらなかったが、病気にかかったものの中では脚気がダントツで、三万四七八三人、うち死亡者は三九四四人。戦闘による死者より脚気による死亡者の方が、三倍以上多かったのである。

一方、海軍将兵の場合はまったく様相が違った。海軍の出兵数は三〇九六人だったが、脚気患者はわずかに三四人、しかも死者はたったの一人だけだったのである。

さらに、日露戦争ではどうだったか。海軍の脚気患者は、軽症者がほんの数人で、ほぼ皆無に近い結果だった。

これに対し陸軍は延べ一一〇万人が参戦し、戦死者が約四万七〇〇〇人にものぼる悲惨な数字を記録した。だが、それにもまして政府や陸軍首脳を慄然とさせたのは、脚気患者の数であった。傷病者の合計は三五万二七〇〇人だったが、うち脚気罹患者がなんと二一万一六〇〇人、うち死者が二万七八〇〇人というおそるべき数字を示したのである。これは古今東西の戦史の中でも類例を見ない、異常な事態と評された。

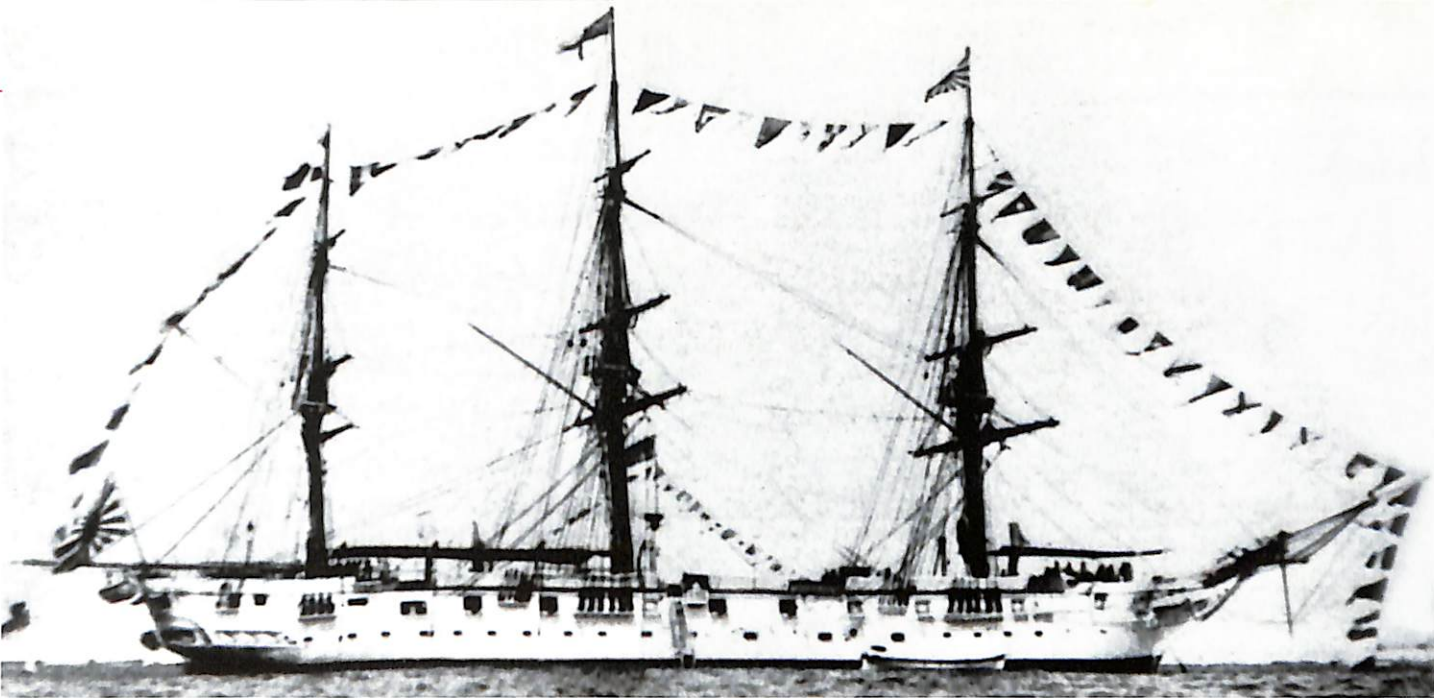
日露戦後二〇年以上 脚気の原因論争続く

脚気は東アジアに多い疾患で、罹患すると知覚・運動など神経系の不調や、循

▲明治38年7月10日、工兵第13大隊の露営中の食事風景。陸軍では「脚気は細菌によるもの」とし、兵食は白米中心だったため、多くの罹患者が出た。『日露戦役写真帖』

▶「脚気伝染病」派のリーダー、陸軍の石黒忠悳。

松田誠提供

▲高木兼寛の「栄養障害説」に反対し続けた陸軍軍医・森林太郎（鷗外）。

▶明治一六年、練習航海に出た軍艦「龍驤」で、一六九人の重症脚気患者が出た。翌一七年、軍艦「筑波」(写真)が、高木兼寛の改善食を積んで、「龍驤」と同じコースを航海したが、脚気患者は出なかった。

松田誠提供

環器系の異常、身体のむくみなどの病変が現れる。そして症状が重くなるにしたがい、歩行困難、視力の衰えが現れ、ついには心臓麻痺を起こして死亡するにいたるというもの。日本では江戸時代の元禄(一六八八〜一七〇四年)以降に、主として都市部を中心に流行し、俗に「江戸わずらい」と呼ばれていた。徳川歴代将軍のうちでも、家光、家定、家茂の死因は脚気と言われた。しかし、当初は原因が不明で、「風土病説」「伝染病説」などが唱えられたがさだかではなかった。

そんな中、明治初期から脚気の原因究明に取り組んだのが海軍の軍医であり、後の東京慈恵会医科大学の創始者でもある高木兼寛である。

日向の出身で、戊辰戦争に従軍した高木は、イギリスに留学し、帰国後、海軍の軍医となる。高木が注目したのは、海外遠征した軍艦の行動記録だった。脚気患者の発症は航海中には見られるが、停泊中には見られなかったのである。また、脚気が食べ物の貧弱な兵に集中し、士官には少ない事実もつかんだ。高木は食事が脚気発症の原因と大きく関係するとにらんだのである。

明治一七年、海軍省医務局長に昇進していた高木(当時・三五歳)は、全海軍(約五〇〇〇人内外)の食事の大改革を断行した。精米四割、押し麦六割とすることを柱とした改革により、明治一〇年代前半には、多い時で二〇〇〇人弱を数えていた脚気患者の発生が、一七年には七〇〇人に急減し、一八年には死者ゼロとなった。明らかに、精白米のとりすぎによる栄養障害を裏づけていた。だが、

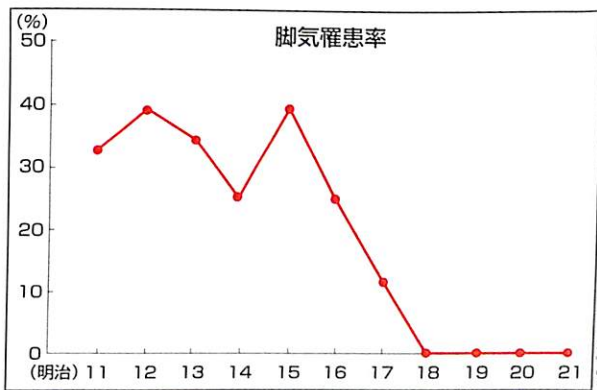
これに対し、ドイツ医学の嫡流であるとの自負を持つ陸軍の医療幹部や、医学界主流の帝大医学部の面々は、栄養障害説を排斥し、脚気が細菌を病原体とするものだという自説に固執したのである。そしてその中心にいたのが、石黒忠悳(後の陸軍軍医総監)とその配下の森林太郎(同、筆名・鷗外)だった。

ドイツに留学し、細菌学の泰斗であるロベルト・コッホに師事した森は、海軍が脚気の発症を激減させたのは、麦食によるものではなく、流行の周期と麦食の供与が偶然に一致したにすぎず、高木らの説は学問的な根拠を持たないと主張した。学理を重んじるドイツ流医学者らしい主張だった。そして勢い余って、高木説を「ある権力家の偽りの独断」とまで論難したのである。

だが、陸軍軍医中枢の主張は、兵の消耗を避けたい前線部隊によって崩壊していった。麦食を主とする刑務所の囚人に脚気の少ないことに着目した大阪鎮台などが、次々と麦食に転換し、脚気患者が急減したからである。

「この時点では、高木らが実証的な成果をあげ、事実上、論争に決着がついていました。にもかかわらず森ら陸軍の軍医中枢が自説をまげなかったのは、医学の本流意識によるメンツと思いこみでしょう。しかし、今では誰もが知っているように、脚気はビタミンB1欠乏症なのですが、それが定説として認められるのは、森も高木もこの世を去った、大正一四年の臨時脚気病調査会の最終報告まで待たなければなりませんでした」(科学評論家・板倉聖宣氏)

松田誠提供

▲鶏を使った実験。鶏を白米で飼育すると、脚気の症状と同じ多発性神経炎(写真)となり立てなくなる。しかし飼料を玄米にするか、糠を加えるかすると、ただちに治癒する。

▲海軍兵士の脚気罹患率の推移。明治17年からの高木兼寛の兵食改善によって、海軍の脚気は根絶された。

女たちの肖像

髪形「花月巻」を流行させた"教育界の妖傑"下田歌子の大物政治家相手の恋と計算

稲葉真弓

実践女学校(現・実践女子大)の創設者、下田歌子(幼名・鉐)の顔は、時に"宮廷の才女"、ある時は"教育界の妖傑"と、実にさまざまである。美貌と才気で、政界の大物を次々と籠絡し、醜聞・艶聞をまき散らしたと思うと、一方では病弱の夫に仕えるといった健気な面も見せている。さらに彼女は風俗にも大きな影響を与えたが、この年大流行した「下田歌子式花月巻」なる髪形もそのひとつだった。日露戦争勃発下、節倹が叫ばれる中にあって、歌子考案の"花月巻"は、ゴム製の櫛とリボンだけで結える節約型。東京の小間物屋では贅沢なものが売れなくなり閑古鳥が鳴いたというから、彼女が世の女性に与えた"教育的"影響力の大きさがよくわかる。

歌子は安政元年(一八五四)、美濃国(岐阜県)岩村に生まれた。父は岩村藩士、祖父は儒学者で、幼時から和歌や俳句に親しみ、八歳で漢詩をものした。思いこみの激しさも人並みではなく、武芸修業と称して手でたらいの氷を真二つに割る練習をして、母親を嘆かせたという。

頭角を現すのは、明治四年に一八歳で上京、翌五年、宮中に出仕してからのこと。和歌、国学の才を皇后に認められ、歌子の名を賜るなど異例の出世をとげた。

明治一一年退官し、翌年、旧丸亀藩士・下田猛雄と結婚。しかし、夫はまもなく病で倒れ、家計を助けるために自宅に「桃夭女塾」を開設。パトロンとして伊藤博文、井上毅、土方久元などが名をつらね、上流階級の子女が集まった。これが彼女の教育界における第一歩になるのだが、一七年に夫が死没すると、同年の華族学校創設に参画。皇后の推薦で、翌年学監兼教授となった。

この頃の彼女の艶聞は、伊藤博文、山県有朋など枚挙にいとまがない。彼女にとって大物との関係は必要欠くべからざるものであり、恋愛は同時に"政治"でもあった。

▲終生、皇室中心主義を通した。

一方で彼女は、明治天皇の皇女の教育掛に抜擢され、欧州を視察、帰国後は、女子教育の充実をめざし帝国婦人協会を設立。明治三二年、良妻賢母型の教育理念を実践するため「実践女学校」や「女子工芸学校」などを開設した。三九年、学習院の女学部長に就任したが、その奔放な男性関係が問題になり翌年辞任。以後は愛国婦人会会長や実践女学校の仕事に専念、著作活動を展開したが、昭和一一年肺水腫で死去した。

勝者・敗者

「挑戦」の歴史ここに始まる！東京高師サッカー部の腕試し横浜の外国人チームに九対零

阿部珠樹

明治時代、慶応、早稲田と並んで、近代スポーツの導入、普及の先導役をつとめたのは東京高等師範学校(現・筑波大学)であった。教員養成機関である東京高師がスポーツのパイオニアになったのには、わけがある。文部省は、近代体育導入の窓口として体操伝習所を設立したが、後にこの組織を東京高師は吸収し、一部門としたからである。

慶応、早稲田のスポーツが、学生や教員の間で自然発生的に生まれ、成長していったのに対し、東京高師の場合は、こうした背景もあって、ホビーよりも学習として欧米の新しいスポーツを導入していった。

東京高師が口火を切って導入、普及したスポーツはいろいろあるが、中でもサッカーはその代表的なものといえる。

日本でサッカーの試合が初めて行われたのは明治六年と言われている。日本海軍を指導するため招かれていた英国人将校とその一行が、日本人の前でサッカー(英国人だから、当然「フットボール」と呼んでいただろう)をプレーして見せた。この頃には、すでに英国ではフットボール協会が組織され、大衆的な娯楽に成長しつつあった。

その後、体操伝習所の教員、ジョージ・リーランドによって、サッカーは徐々に広められていく。中でも体操伝習所を吸収した東京高師にはいち早くチームが作られ、腕試しの機会をねらっていた。そしてこの年、明治三七年二月六日、その機会がやって来た。横浜にあった外国人のクラブチームと、横浜公園で日本サッカー史上初めての国際試合が行われることになったのだ。

国際試合というのはいつも心躍るものだが、とりわけ日本初の栄光を担った選手たちには大きな喜びだったに違いない。試合の方は、技術、体格、経験ともに勝る外国人クラブの圧勝だった。スコアは九対零。しかし、どんな結果にせよ、日本サッカーの「挑戦」の歴史がここから始まったことは間違いない。明治の青年たちが、完敗に唇を噛みしめながら、いつの日かヨーロッパに追いつくことを夢見た精神は、ワールドカップに出場した日本代表の選手たちにも確実に受け継がれている。

中村統太郎提供

▲外国人チームと初めて対戦した東京高師のイレブン。

ニュース・ファイル 1904

フォト＋日録で再現する366日

二月八日、日露両国がついに戦端を開いた。国民は相次ぐ戦勝の報に沸いたが、一方、おびただしい戦死傷者の数と重税が、その肩に重くのしかかった。そんな中、梅ケ谷・常陸山の両横綱が全盛期を迎えて人気を二分、野球では早慶の熱闘がいよいよ始まる。

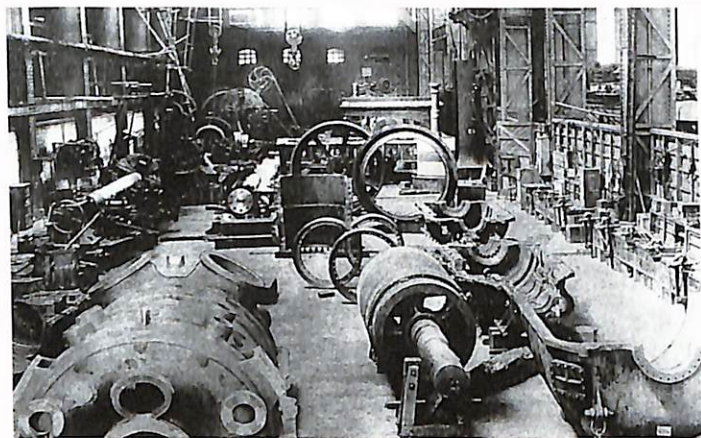
◀梅・常陸時代到来（1月）前年五月場所で優勝の常陸山（30）、準優勝の梅ケ谷（25）が横綱同時昇進、初場所初めて激突した。常陸山は豪快、梅ケ谷は巧者と対照的でファンを二分、相撲人気をあおった。写真は常陸山。

毎日新聞社

1月

東京女子大学提供

▲安井てつ（33）、タイへ（1月）王侯貴族の子女教育のためタイ政府が招聘。皇后女学校創立に尽力、3年間教育主任をつとめた。中央が安井。二人は助手。

▶第1回「一葉会」（1月）東京の元樋口一葉宅を森田草平が借りたのを機に結成。前列左端・小山内薫、隣・与謝野鉄幹、後列左から二人目・与謝野晶子。

三菱重工業提供

▲三菱造船所、タービンに外国技術導入（1月）大型化・高速化の要求にこたえ、英・パーソンズ社と提携。明治44年にはタービン搭載大型客船「春洋丸」を竣工させた。写真は長崎の組み立て工場。

▼「アマチュア写真」時代が到来（1月9日）写真材料商・桑田正三郎らが、大阪で浪華倶楽部を発足させ、「芸術写真」に目覚めた人々が集まった。この頃、同様の団体が全国に輩出した。

▲益田孝（鈍翁）、三井物産を退く（1月1日）専務理事をやめ、三井家の事業、銀行・物産・鉱山を持株会社・三井合名によって管理する方法を模索。3年後、欧米視察に。55歳。

▶チェーホフの「桜の園」大喝采（1月17日）病魔と闘いながら完成した最後の力作を、スタニスラフスキーが演出、モスクワ芸術座が初演。6カ月後、チェーホフは肺結核が悪化、不帰の人となった。

明治37年1月

1（金）●木下尚江、反戦小説「火の柱」を「毎日新聞」に連載開始。

2（土）●「報知新聞」、輪転機で初の写真印刷。川上貞奴などの写真を掲載。

3（日）●静岡県藤枝町で大火、二六六戸焼失。

4（月）●大発会の株式相場、日露開戦必至で大暴落。

5（火）●陸・海軍省、日露情勢緊迫を理由に軍機・軍略事項の新聞・雑誌への掲載を禁止。

6（水）●駐日露公使・ローゼン、満州（中国東北部）問題に関する最終提案を小村外相に提出。

7（木）●日露開戦・不開戦の賭け率は四対六と新聞に。

8（金）●政府、官線福知山―舞鶴間、小浜線、鳥羽鉄道など各地の鉄道速成計画を決定。

9（土）●文部省、徴兵猶予を利用する学生に厳重警告。

10（日）●前年の輸出入額が初めて六億円突破と新聞に。

11（月）●前年11月末の国債発行高は五億八八〇三万円余、と新聞に。

12（火）●独領南西アフリカでヘレロ族が蜂起。独が部族の八割を無差別に殺戮して鎮圧。

●御前会議で天皇が対露交渉継続を指示。

13（水）●日本、満州問題の日本側最終案を露に通告。

14（木）●東京で「社会主義大演説会」、対露不戦を主張。

15（金）●興銀、清国の大冶鉄山に三〇〇万円の融資契約。日本が清国に供与した最初の借款。

16（土）●東京商業銀行の富籤類似貯金禁止。

17（日）●チェーホフの「桜の園」、モスクワで初演。

18（月）●旅順の邦人が引揚げ、帰国する。

19（火）●岩越線（現・磐越西線）の喜多方―若松間開業。

20（水）●政府、英・米・独・仏に日露間交渉に関する第三国の仲裁拒絶を表明。

21（木）●清国、日露戦争に中立を宣言（23日、韓国も）。

22（金）●小麦粉の輸入が倍増、四万トン超えると新聞に。

23（土）●東京の神田教会で社会主義協会主催の第一回社会主義婦人講演会（以後、毎月一回開催）。

24（日）●三五年の東京府の自殺者は四六五人と新聞に。

25（月）●鉄道軍事供用令公布。日露戦準備の一環。

26（火）●文部省、東京高等師範・女子高等師範学校の付属小学校で二部授業を実施研究させる。

27（水）●愛国婦人会、日露開戦の檄文を全会員に配布。

28（木）●「社長・秋山定輔はロシアのスパイ」とのデマから、二六新報社を暴徒が襲撃。

29（金）●全国の中学校は二六八校（私立三七）と新聞に。

30（土）●早大雄弁会、神田・錦輝館で第一回公演。

31（日）●東京市街鉄道（略称・街鉄）本郷線開通。

▲**巡洋艦「日進」「春日」到着（2月16日）**イタリアがアルゼンチン向けに建造中の2艦を、日本が1600万円で購入、日露開戦直後のこの日横須賀へ。写真は前年末、ジェノバで艤装を急ぐ2艦。

▶**大阪府立図書館開館（2月25日）**住友家が25万円を寄金、中之島に緑のドームとギリシャ風列柱の堂々たる洋館ができた。昭和49年、明治期の代表的建築として重文に指定。

▲**長岡半太郎（38）、原子の土星型モデルを発表（2月25日）**イギリスの科学誌「ネイチャー」に掲載。写真は前年、教え子の東大物理学科卒業生らと。前列右端が長岡、左端・寺田寅彦。

▼**日銀副総裁・高橋是清（中央）、外債募集に奮戦（2月）**日露戦争の費用を調達するため渡英し、目標額1億円の半分を獲得、仏・米などでも5回の募集を成功させ、信望を集めた。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▶**熊本・八代干拓地で潮止め（2月9日）**江戸時代以来の干拓地の外側に10キロの堤防を築造し、農地1000ヘクタールを造成。12月の竣工後、組合管理のもと、八代町ほか23町村が平等に耕作した。

◀**カルーゾ（30）、米国で吹きこみ（2月1日）**2年前英国で発売したレコードが100万枚突破、その更新が期待された。写真は「リゴレット」の領主役。人気絶頂のテノールだった。

明治37年2月

1（月）●大山参謀総長、対露先制攻撃即刻実施を上奏。
2（火）●東海道線・足柄—小山間で貨車脱線、三両焼失。
3（水）●一月の物価、特に内地消費品が高騰と新聞に。
4（木）●御前会議で対露交渉打ち切り・開戦を決める（6日、栗野駐露公使が対露国交断絶を通告）。
5（金）●逓信省、外国への電報に暗号の使用を禁止。●露軍が遼陽から南下、鴨緑江へ向かう。
6（土）●横浜で日本初のサッカー国際試合。東京高師が横浜の外国人チームに九対零で敗れる。
7（日）●日本ロシア正教会のニコライ主教が「戦争に際し日本国民の本分を尽くせ」と信徒に指示。
8（月）●日本の水雷艇が旅順港の露艦船を夜襲。●陸軍先遣部隊、韓国の仁川に上陸開始。
9（火）●瓜生艦隊（第二艦隊第四戦隊）、仁川港外で露軍艦「ワリヤーグ」など二隻を攻撃、両艦自沈。
10（水）●露に宣戦布告、日露戦争始まる。●岡倉天心、横山大観、菱田春草らが渡米。天心は翌年、ボストン美術館東洋部長に就任。
11（木）●曾我廼家五郎・十郎一座、大阪で旗揚げ。
12（金）●陸軍が軍服を濃紺からカーキ色に改める（夏服から順次着用）。
13（土）●パナマが憲法採択。大統領制・二院制を採用し、米国の干渉権も承認。
14（日）●長崎・佐世保・対馬とその沿海、函館に、臨戦地域として戒厳令施行。
15（月）●東京で国華座が戦争劇「帝国万歳大勝利」上演。
16（火）●軍の糧食に粉味噌採用、工場は徹夜で製造。●アルゼンチンから購入した軍艦「日進」「春日」が横須賀到着。
17（水）●韓国の仁川で「軍用切符」一七万円を初発行。
18（木）●東京の市街電車、車内禁煙を実施。
19（金）●日比谷公園で「日進」「春日」回航員歓迎会。
20（土）●日銀に金銀製品が続々提供され日銀は預り証を発行、代貨に代える、と新聞に。
21（日）●参謀本部、臨時軍用鉄道監部を編成し、漢城（現・ソウル）—新義州間の鉄道建設を開始。
22（月）●勅令で東京に俘虜情報局を設置。
23（火）●日韓議定書に調印。韓国の軍事基地化ねらう。
24（水）●第一次旅順港閉塞作戦。
25（木）●住友吉左衛門寄付の大阪府立図書館が開館。
26（金）●文部省、私立女子大学（日本女子大）を認可。
27（土）●染物工場が祝勝用の国旗を染める、と新聞に。
28（日）●平壌付近で日露の斥候が衝突、陸戦が始まる。
29（月）●諸物価高騰の中、砂糖のみ変わらずと新聞に。

▲**曾我廼家五郎・十郎一座、旗揚げ（2月）**日露戦争勃発をヒントに、大阪・浪花座で自作の喜劇「無筆の号外」を上演、大ヒットした。写真は、得意の五郎。26歳。

◀**田山花袋（左端・32）、日露戦争に従軍（3月23日）**博文館写真班員として活動、後に『第二軍従征日記』を執筆した。この体験が、自然主義文学へいたる「目」を養った。

▼**清国皇族・溥倫（前列中央）来日（3月20日）**現皇帝・光緒帝の従兄の嫡子で、帝室中、粛親王に次ぐ地位。セントルイス博参観の途次入京。芝離宮に滞在し、25日には参内して天皇の歓待を受けた。

▶**大蔵省、戦時国債発行（3月1日）**日露戦争の軍事費を補うため1億円を発行。4.5倍の応募があり、国民の戦争支持の強さをうかがわせた。写真は25円の仮債券。全額支払い後、本債券と交換された。

貳拾五圓

PROVISIONAL
EXCHEQUER BOND
EMPIRE OF JAPAN.

「戦時画報」

▼**上野—浅草間に市電開通（3月18日）**前年来の品川—新橋、新橋—上野、日本橋—雷門に続いて開通。かつて市内交通の主役だった鉄道馬車が、完全に姿を消した。

▲**軍事予算3億8000万円（3月20日）**第20臨時議会が開催され、「挙国一致」の名のもとに政府案可決。前年度国家予算の1.7倍の臨時費だった。

明治37年3月

1（火）●第九回総選挙。政友会一三三、憲政本党九〇。
2（水）●松方正義・徳川家達ら、帝国軍人援護会設立。
3（木）●独皇帝がエジソン筒（初期のレコード）に声を吹きこむ。現存する最初の政治的レコード。
4（金）●二葉亭四迷、大阪朝日新聞社に入社。
5（土）●上野音楽学校で赤十字寄付慈善音楽会。
6（日）●上村艦隊が初めてウラジオストクを威嚇砲撃。
7（月）●韓国皇帝慰問に伊藤博文を特使として派遣。
8（火）●外務省が露領への出漁禁止、と新聞に。
9（水）●横浜鉄道会社（現・JR横浜線）設立。
10（木）●人力車営業取締規則を改正。車夫の法被または雨具の背に免許番号を入れる。
11（金）●第一軍主力、韓国の鎮南浦に上陸開始。
12（土）●カーネギーの寄付金で、勇敢な行為を表彰するカーネギー・ヒーローファンド委員会設立。
13（日）●「平民新聞」の幸徳秋水が社説で「共通の敵は軍国主義」と主張、日露戦争反対を訴える。
14（月）●米最高裁、持株会社のノーザン・セキュリティーズ社設立に、反トラスト法違反の判決。
15（火）●官鉄山陰山陽連絡線の倉吉—松崎間開通。
16（水）●「日露大海戦」絵はがき売れ行き好調と新聞に。
17（木）●全国の絹織物業者、絹布税反対同盟会を組織。
18（金）●上野—浅草間市街電車開通。鉄道馬車消える。
19（土）●英から輸入の、軍艦用良質石炭四五二七トンが長崎に到着。
20（日）●第二〇臨時議会開会（29日まで）。戦時会計に関する法律決定。
21（月）●ハワイ移民三五〇人、米移民八〇人、横浜出発。
22（火）●米「デーリー・イラストレーテッド・ミラー」紙が、初めてカラー写真を掲載。●「二六新報」、露のスパイ容疑濃厚として発禁。
23（水）●河口慧海、『西蔵旅行記』を刊行。
24（木）●警視庁、痰壷設置や消毒方法などを定めた、肺結核予防規則を公布。
25（金）●盛岡電気に事業経営許可（翌年開業）。
26（土）●東京に千代田生命保険設立（基金三六万円）。
27（日）●第二次旅順港閉塞作戦。後、戦死した広瀬中佐が「軍神」とたたえられる。●「平民新聞」の社説「嗚呼増税」に発禁処分。
28（月）●団子「メチャメチャ弾功占領形」発売と新聞に。
29（火）●臨時軍事費など、約五億円の軍費支出が成立。
30（水）●日本石油社長、四ヵ月の予定で米視察に出発。
31（木）●第一次電話拡張計画終了。加入数は全国で三万五〇一三。

▲柳田国男（28、右側）結婚（4月9日）新婦は養父・柳田直平の四女、孝（17）。柳田は2年前に法制局参事官に就任、「抒情詩人」の面影は露ほども見せず、公務一筋だった。左が養父母。直平は大審院判事。

◀セントルイス万博開幕（4月30日）米国のルイジアナ買収100年を記念。20世紀のエネルギー、電気をアピール。日本は寝殿造りの特設館などを出展した。写真は、中心施設のフェスティバル・ホール。

CORBIS・BETTMANN／PPS

◀「ロールス・ロイス」デビュー（4月1日）英国人・ロイスが2気筒10馬力、パルテノン神殿をイメージした高級感あふれる自動車を完成。2年後、販売担当のロールズと、ロールス・ロイス社を設立。

「戦時画報」

▲「軍神」広瀬中佐、葬儀（4月13日）前月27日、旅順港閉塞戦で、部下の安否を求め船内を捜索中に戦死。その最期が美化され、東京・青山墓地は惜別の群衆で埋まった。文部省唱歌にも歌われた。

京都府立総合資料館提供

◀仏教大学開校（4月）浄土真宗本願寺派（西本願寺）の良如が1639年に起こした学寮が起源。京都・七条に明治12年に設立された大教校に、普通学を加えて整理・統合した（現・龍谷大学）。

毎日新聞社

▲北越鉄道が全通（5月3日）最後まで残っていた沼垂―新潟間が開通し、長岡―新潟間が全通。明治26年開通の信越線と結ばれ、上野―新潟間が鉄道で直結された。写真は新潟駅での出発式。

明治37年4月

1（金）●英でロールス・ロイス一号車が完成。
●煙草専売法公布（7月1日施行）。
●増税や新税創設を定めた非常特別税法を公布。

2（土）●欧米への輸出唐辛子が年に一〇万円と新聞に。

3（日）●東京の煉瓦工三五〇〇人余、賃上げで争議。

4（月）●下士兵卒家族救助令を公布。

5（火）●日比谷公園内松本楼の工事始まる、と新聞に。

6（水）●八幡製鉄所、第一高炉第二次火入れ（7月の第三次火入れで軌道に乗る）。

7（木）●セントルイス万国博に日本が出店する喫茶店の女性接待員一五人が渡米。

8（金）●英仏協商成立。英のエジプト占領、モロッコでの仏権益を相互に承認。

9（土）●東武鉄道、両国橋―北千住間に臨時観桜列車。

10（日）●福岡県の若松港が石炭積み出し港として開港。

11（月）●関西鉄道、九〇日間有効の進物用乗車券発売。

12（火）●満州潜入の日本人「軍事探偵」二人が露軍に逮捕される（21日、銃殺刑）。

13（水）●旅順港付近で露の戦艦「ペトロパブロフスク」が触雷・沈没。司令長官・マカロフ中将戦死。
●岡山県立岡山高等女学校で、月謝紛失事件調査のため、裸体身体検査を行って問題化。

14（木）●韓国王宮内の咸寧殿から出火、王宮ほぼ全焼。

15（金）●独伊間に国際労働協約が成立（各国に波及）。

16（土）●東京府教育会、女子体育研究会を設立。常設の調査委員長に井口阿くりを推挙。

17（日）●旅順要塞司令官・スミルノフが旅順到着。旅順司令官・ステッセルと二重指揮で混乱も。

18（月）●学制研究会、尋常・高等小学校の区別廃止決議。

19（火）●カナダのトロントで大火、市の大半を焼失。

20（水）●横浜の外国人が旅順陥落期を賭けると新聞に。

21（木）●国庫の現金が払底。日銀、臨時事件費として政府に二億三九〇〇万円を融資。

22（金）●米国、仏のパナマ運河会社の資産を四〇〇〇万ドルで買収（5月4日、工事開始）。

23（土）●警視庁が夜間の提灯行列を解禁、と新聞に。

24（日）●大阪相撲の力士、横浜で兵士義捐義太夫会。

25（月）●官鉄と関西鉄道が運賃競争停止協定書を交換。

26（火）●豪で初めて労働党内閣が成立。

27（水）●品川湾の潮干狩り船賃は大人一八銭と新聞に。

28（木）●裸体絵はがきは発見次第発売禁止、と新聞に。

29（金）●大阪・道頓堀の浪花座が全焼。

30（土）●米国でセントルイス万国博覧会開催。仏からのルイジアナ買収一〇〇年を記念。

証言・あの日この日
島村抱月（32）

2月7日（日）〈Sunday 晴、後曇、朝新小説への原稿、「答登張竹風書」中止の激烈なる短文を送る、午後好本君とDixon君を訪ひ後New CollegeのServiceに行く、Stephans君と同道也／Haynes、Sackerの二君も来たり、此の二君より日露の公使其任地を去る云々の噂を聞き戦争なるかを思ふ、種々戦争の話などす〉（島村抱月『渡英滞英日記』）

「東京専門学校海外留学生」として、イギリスのオックスフォード大学に留学して2年目を迎えていた島村抱月は、英文学の研究に励みながらも、日本の文壇情勢や国際情勢にも注意をおこたらなかった。この頃、日露関係が急速に悪化、戦争の危機が迫りつつあったが、この日、遊びにやって来た英国人の話から、日露の公使が任地を引揚げ、国交が断絶したことを知る。（山崎行太郎）

▲パーカー万年筆、新案特許（5月3日）インクを吸入するレバー装置を開発。先行のウォーターマンを急追し、世界最大のメーカーへの道を歩み始めた。

▶小学校教科書、国定に（4月）教科書疑獄事件を契機に促進。ついに、国定教科書時代が始まり、忠君愛国教育が強化された。写真は販売所。

京都府立総合資料館提供

「戦時画報」

▶鴨緑江戦祝勝（5月3日）鴨緑江を渡河し、九連城を占領。日本が圧勝したが、900人以上もの死傷者が出た。写真は、横浜グランドホテルの祝勝会。

▲上野彦馬、逝く（5月22日）坂本龍馬の肖像や西南戦争を撮影し、日本最初の記録写真を残した日本写真の開祖だった。65歳。写真は長崎・晧台寺での葬儀。

▶米国、パナマ運河着工（5月4日）前年、パナマを独立させ、4月には仏運河会社の資産買収にも成功。9年後に竣工、太平洋・大西洋が水路で結ばれた。

ARCHIVE PHOTOS

明治37年5月

1（日）●鴨緑江の戦い。第一軍、ロシア軍を撃破。
●吉沢商店製作の日露戦争実写映画を神田・錦輝館で上映し好評。以後、実写映画次々に製作。

2（月）●高崎税務署に放火した元署員に死刑判決。

3（火）●第三次旅順港閉塞作戦。

4（水）●瀬戸内海・燧灘で愛媛・広島の漁民が漁場争い。

5（木）●第二軍、遼東半島に上陸開始。
●ボストン・レッドソックスのサイ・ヤング投手が米大リーグ初の完全試合。

6（金）●神戸造船所で商船学校練習船「大成丸」竣工。

7（土）●警視庁、掃除励行など四〇日間の清潔運動。

8（日）●東京の戦勝祝賀提灯行列に一〇万人以上参加。熱狂のあまり馬場先門前で混乱、死者二〇人。

9（月）●政府、日露戦争軍事費として英貨公債一〇〇〇万ポンド募集を決定（以降三回募集）。

10（火）●相撲協会の力士ら一五〇〇人が提灯行列。

11（水）●露の捕虜三〇〇人を松山臨時救護所に収容。

12（木）●文部省、神奈川県逗子の開成中学設立を認可。

13（金）●清国の慶親王、内田公使に問い詰められて露清密約の存在を明かす（18日、清が破棄宣言）。

14（土）●四月までに横浜を訪れた外国人観光客は、前年の五割以下の一二七人、と新聞に。

15（日）●戦艦「初瀬」など軍艦六隻を触雷で一気に喪失。

16（月）●京都・奈良回遊乗車券（新橋発三等八円）発売。

17（火）●米領事、函館でペリー上陸五〇周年晩餐会。

18（水）●韓国が露韓条約破棄を声明。

19（木）●第一〇師団、遼東半島南岸に上陸開始。第一・第二軍の間隙を埋め、北上の態勢がほぼ整う。

20（金）●岩手県沼宮内町で大火、三一〇戸余全焼。

21（土）●政教分離問題から仏と教皇庁の関係悪化、仏がバチカン大使を召還（7月、断交）。

22（日）●日本の写真術の始祖、上野彦馬が死去。

23（月）●独・仏・ベルギー・オランダの汽船会社が英汽船に対抗し米航路運賃を一人一〇ドルに値下げ。

24（火）●二三日までの兵士義捐金は四〇万円と新聞に。

25（水）●郵便集配人の市街電車賃を無料に、と新聞に。

26（木）●第二軍が激戦のすえ、遼東半島の金州・南山を占領、極東の露軍主力から旅順を分断。

27（金）●政府、社会主義取締り強化方針を発表。

28（土）●神田共立女学校開校。

29（日）●開戦以来の外国船購入は前年の六倍と新聞に。

30（月）●戦争のため新聞・雑誌が歓迎され、貸本屋の探偵小説などが不振、と新聞に。

31（火）●閣議、韓国の保護国化方針を決定。

▲**堺利彦出獄（6月26日）**週刊「平民新聞」に幸徳秋水の非戦論「嗚呼増税」を掲載、編集発行人として新聞紙条例違反に問われ、2ヵ月の禁固刑を受けていた。写真は出所祝い。前列中央が堺（33）。

▲**中村扇治郎の「助六」に待った（6月）**前年に死んだ9代目市川団十郎の十八番を演じようとして、市川家から興行差し止めの訴え。写真は、助六姿の団十郎。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▶**ヘレン・ケラー、大学卒業（6月）**生後19ヵ月で失明・失聴し、盲聾唖の三重苦を背負いながら、米国・ラドクリフ女子大を優等で卒業。その生涯を障害者福祉事業にささげた。23歳。

京都府立総合資料館提供

▲**京都・二条駅完成（6月）**京都鉄道会社が、園部にいたる路線（現・山陰本線）の起点に、木造2階建て、平安神宮を模した入母屋造りの駅舎を建設。平成8年、下京区の梅小路公園に移築された。

毎日新聞社

▲**陸軍運送船「常陸丸」沈没（6月15日）**日露戦の補充部隊を乗せ玄界灘を航海中、ロシア艦隊が砲撃。救助者はわずか三十数人。写真は、海岸に漂着した遺体を葬る山口県神田村村民。

東芝提供

▶**芝浦製作所独立（6月25日）**日露戦争による発電機・重電機などの特需で業績を伸ばし、三井鉱山から一本立ち。会長に三井守之助、専務に大田黒重五郎が就任。写真は、この頃の工場。

明治37年6月

- **1**（水）●箱根・宮ノ下—元箱根間の人力車道工事完成。
- **2**（木）●軍隊衣服用羊毛が世界的に暴騰とロンドン発。
- **3**（金）●金沢市で大火、二五六戸焼失。
- **4**（土）●台湾総督府、幣制を改正し、金兌換新券発行を決める（7月1日施行）。
- **5**（日）●大日本労働至誠会の南助松、労働運動組織のため、夕張炭坑を離れて各地遊説に出発。
- **6**（月）●陸軍中将の児玉源太郎・乃木希典と、海軍中将の東郷平八郎・山本権兵衛を大将に任命。
- **7**（火）●東京の赤十字病院で、バラック建設中に地震のため作業員が屋根から落下し一六人負傷。
- **8**（水）●大本営、記録のため写真班を前線に派遣。
- **9**（木）●銃砲火薬取締規則を公布。
- **10**（金）●スイスのベルンで露公使が露の無政府主義者に襲われて負傷。
- **11**（土）●北海道の鰊漁、前年より三万石余も減少。
- **12**（日）●仏の新聞が日本兵の露兵捕虜虐待を報道。
- **13**（月）●落語家・石井ブラックが催眠施療、と新聞に。
- **14**（火）●警視庁が新聞・雑誌の懸賞行為禁止と新聞に。
- **15**（水）●ニューヨークで遊覧船火災、死者一〇三〇人。
  - ●露・ウラジオストク艦隊が、対馬海峡で運送船「常陸丸」などを撃沈。
- **16**（木）●露のフィンランド総督を同国議会職員が殺害。
- **17**（金）●大阪の第百三十銀行が不良債権を抱えて支払い停止。西日本の経済界が動揺する。
- **18**（土）●関税増率を見こし石油輸入が活発、と新聞に。
- **19**（日）●後送兵のために赤十字新橋患者休養所を設置。
- **20**（月）●満州軍総司令部（大山巌総司令官）を編成。大山転出後の陸軍参謀総長に山県有朋を任命。
- **21**（火）●東京市街鉄道芝線（日比谷—芝間）開通。
- **22**（水）●房州ビワが豊作で四斗樽入りが三〇～六〇銭。
- **23**（木）●京都帝大が卒業式廃止、臨時卒業方式とする。
- **24**（金）●皇后・東宮妃下賜の包帯が舞鶴海軍病院着。
- **25**（土）●芝浦製作所設立（東芝の前身のひとつ）。
  - ●大阪市の人口一〇〇万人、と新聞に。
- **26**（日）●日本衛生学会創立。
- **27**（月）●トルストイが「ロンドン・タイムズ」に戦争の愚を説く「日露戦争論」を寄稿。
- **28**（火）●工場地帯の本所・深川で職工六五七人が失業。
- **29**（水）●独が清国山東省の膠済鉄道を完成。
- **30**（木）●教科書疑獄事件終結。金港堂、普及社、集英堂などの各出版社主らを省令違反で処罰。
  - ●第四軍編成。陸軍一三個師団中、一一個師団の大陸進出が決まる。

「現場」を歩く

江古田

井上円了が設立した「哲学堂」七七場の教育的意義

山本徹美

明治三七年四月八日、東京・野方村江古田（現・中野区松が丘）にある通称、和田山の頂で「四聖堂」の落成式が開催された。

堂主は井上円了（当時・四六歳）。越後・三島郡出身の円了は明治一一年秋、東京大学に入学、哲学を専攻し同一七年には西周らと学会「哲学会」を結成。卒業後は〝欧化〟一辺倒の世相に危機感を抱き、東洋思想の重要性と可能性を主張すべく出版、講演活動を行う。さらにみずからの思想を「英材に教育する」必要を感じ、同二〇年、哲学館を設立した。

私立大学の認可はなかなかおりなかった哲学館だったが、同三六年一〇月、ようやく文部大臣が認可。喜んだ円了は哲学館大学の用地に、と江古田に約一万五〇〇〇坪（約四・六ヘクタール）を購入。同時にその記念事業として自選四大哲人（孔子、釈尊、ソクラテス、カント）を祀る「四聖堂」の建築に着手したのだった。

円了は和田山に植樹し、坂道を設けるなど手を加え、施設を追加するなどして、社会教育の道場、哲学実行の根本中堂「道徳山哲学寺」にしようと考えた。山門から堂宇、水路、池、橋など全七七場が完成したのは大正四年一〇月。翌一一月、円了は、ここを「哲学堂」と命名し、「精神修養的公園として之を公開して、士女の来遊を」と、一般に開放したのである。

日本唯一、哲学のテーマパーク

「哲学堂」を訪ねてみた。山門「哲理門」の瓦には哲のマークが押してあり、両門柱内には仁王像ならぬ幽霊と天狗がおさまっている。「超越的ユーモア」（円了の息子・玄一）を実感。「四聖堂」「六賢台」「宇宙館」いずれも建築当時のままである。

円了の遺志により「哲学堂」は東京都に寄贈され、昭和五〇年四月からは中野区に移管、区立哲学堂公園として現在にいたる。

「桜のお花見シーズンが最も来園者が多く、一日に約二万五〇〇〇人、最高で五万人を記録したこともありました」（同公園事務所・松田隆義氏）

大正八年六月に没した円了を偲んで、同年一一月から法要「哲学祭」が開催されている。これは円了の遺言第一類第八項に規定してある内容「法会は祥月に依らず一一月中旬の日曜、式場は和田山哲学堂、来会者へは甘酒もしくは紅茶か珈琲を差しだすべし」に基づく。円了の開校した哲学館は現在、東洋大学となり、同大関係者が「哲学祭」を主催している。「毎年一〇〇人以上が参会し、盛大にいとなまれていますよ」（前出・松田氏）

園内を散策すると、人影はまばらで、出会ったのは老夫婦と、老爺のみ。事務所で購入した『哲学堂公園』（前島康彦著）を開いて七七場の由来を調べながら歩けば、いい勉強になる。各地にテーマパークは数多くある。が、哲学を主題にしたものはここだけではないか。子どもは喜ばないにしても、私を含め親自身にとって教育的意義はある、と感じた。

▲「哲学堂」は、東京・中野区の妙正寺川の北側に位置する。公園には桜や梅も多く、都民の憩いの場となっている。　但馬一憲

東洋大学井上円了記念学術センター提供

▲当時の「宇宙館」。「哲学堂」には77場が設定されているが、そのうちのひとつである。

ベストセラー

与謝野晶子、衝撃の反戦詩「君死にたまふこと勿れ」

この年起こった日露戦争は、出版界をも大いに揺るがした。五月には、表紙に「軍国の文学を見よ」とうたった文芸雑誌「新潮」が創刊される一方、非戦論者の牙城とも言うべき平民社から、木下尚江の小説『火の柱』が刊行され、たちまち版を重ねる人気を呼んだ。

「新潮」はその第一ページで次のような檄を飛ばした。「国家自ら生動し、国民自ら活躍す。国運の勃興まさに無前と称す。希くは我文学をして、剛健活大、此勃興時代に恰当するものたらしめよ。而して先づ彼の沈滞、萎微腐敗の百妖を一掃せよ。我徒力微なりと雖も、期する所は大ならざるを得ず。謹で江湖志を同うする青年諸卿に告ぐ」と、開戦の興奮をストレートに表現した。

掲載記事も過激なものが多かった。たとえば、評論家の伊藤銀月は「美と快楽は人を荒廃せしめ、壮美と痛快は人を興奮せしむ」と、耽美的な芸術を排撃する「痛快主義」を唱え、また早月生の名で、今の軍歌は「浅薄平凡にして、何等感情の激越せる所あるを見ず」と斬って捨てた匿名批評や、戦争を題材にした各種舞台を「俗悪なる戦争劇」とヒステリックなまでに攻撃する批評も掲載された。

▲「新潮」創刊号
（新潮社、12銭）

日本近代文学館提供（三点とも）

木下尚江の『火の柱』は、「毎日新聞」に連載された小説を、平民社の幸徳秋水と堺利彦にうながされ一冊にまとめたもの。作者自身、別の記事で当局に拘束されるのを覚悟していた時のことであった。ストーリーは現実と同時進行的に展開され、非戦論者の主人公が、開戦と同時に拘束されるというものだった。

また九月には、この月発行の「明星」夏季号で与謝野晶子が「あゝをとうとよ君を泣く／君死にたまふことなかれ／末に生れし君なれば／親のなさけはまさりしも／親は刃をにぎらせて／人を殺せとをしへしや……」と歌った「君死にたまふこと勿れ」を発表し衝撃を与えた。大町桂月がこれを危険な思想と激しく攻撃し、それに対して晶子らも反論、議論は翌年にまでおよんだ。

▲「火の柱」
（平民社、35銭）

▲「明星」夏季号
（東京新詩社、20銭）

スターと名場面

旅順港海戦や日本軍の進撃実写映画で横田商会大成功

この頃は、まだ十分観客を引きつけられないでいた映画というメディアに、日露戦争は、新しい展開をはかるきっかけとなった。戦場で撮影された映像が、これまでのメディアでは味わえなかった臨場感を観客にもたらし、映画の可能性に大きな期待を抱かせたのである。

撮影は軍の嘱託として派遣されたカメラマンが行い、それとは別に外国の映画社が撮影したフィルムとともに、逐次、日本に運ばれ上映された。旅順港の海戦や日本軍の進撃ぶり、ロシア軍の失態など、盛り沢山のプログラムで人気を呼んだ。フランスのパテーの映画を輸入公開していた映画会社、横田商会はこの人気にこたえて、映写する巡業隊を一隊にふやし、日本全国をほとんど休む暇もなく渡り歩き、大成功をおさめた。

この機に乗じて、人気スターとなった活動弁士もいる。その軍服姿が評判となった花井秀雄である。日露戦争実写フィルムの解説を機に弁士となり、横田商会とは別の活動巡業隊に入って弁士活動を続けるうち、ついに軍服を着て舞台に立つようになった。そして旅順陥落の時には号外を読みあげて喝采をあびるなど、すっかりスクリーンの（外ではあるが）人気者になっていったのである。

マツダ映画社提供

▲日露戦争実写フィルムの人気は、翌年まで衰えることがなかった。

▲日露戦争を契機に、人気弁士の地位を確立した花井秀雄。

▲日露戦争映画の巡業で大忙しだった横田商会の面々。中列左から二人目が横田永之助。

モノ語り'04

お洒落や遊びにも日露戦争の影！「下褄模様」「日露かるた」が流行

◀**日本独特のアイロンが用いられていた** 明治時代から大正時代にかけて、たいていの家庭にあった道具のひとつとして、この「火熨斗（ひのし）」があげられる。底のなめらかな金属製の器具で、中に炭火を入れて暖め、布に押し当ててしわをのばすのに用いられた。当初は鉄製だったが、熱効率や布上での滑りやすさを考慮に入れて改良され、真鍮や銅も混じるようになった。
五十嵐健治洗濯資料館蔵／太田公平

◀**完成したものの使われなかった自販機** この年、切手とはがきの自動販売機「自働郵便切手葉書売下（うりさげ）機」が作られた。向かって右側が3銭切手、左側が1銭5厘のはがきの発売口になっており、中央下部にはポストも取り付けられていた。中の在庫がなくなれば品切れの表示も出るし、釣り銭口もついていた。しかし、正確性に不安があったため、実際には使用されなかった。
逓信総合博物館提供

▲**戦時中でも試みられたお洒落** 日露戦争の時代も、太平洋戦争時代と同じように、華美なものを否定する風潮があった。この写真はその当時のお洒落に用いられていた「下褄（しもづま）模様」で、夫を亡くした女性の工夫である。未亡人、特に戦争未亡人に対する世間の目は厳しく、美しく着飾りたいという素朴な欲求さえ否定された。そのため、表面は無地で地味をよそおい、内側にお洒落をほどこしたのである。
水島衣裳雑貨博物館蔵／山口隆司

日露戦争と紙玩具

かるたのほかにも、万国旗や提灯などが玩具として販売されていた。万国旗は「大日本帝国萬歳」と書かれた日本の旭日旗を筆頭に、アメリカやイギリスの国旗、竜をあしらった日の丸、錨が描かれた旗など10枚が紐でつながっていた。

また提灯は、ことあるごとに行われた提灯行列のまねごとのための玩具で、普段は小さくたたんである。広げると、日の丸や旗などの絵がついている提灯になり、それを棒の先につけて提灯行列風に遊んだという。
日本玩具資料館蔵／小森谷信治

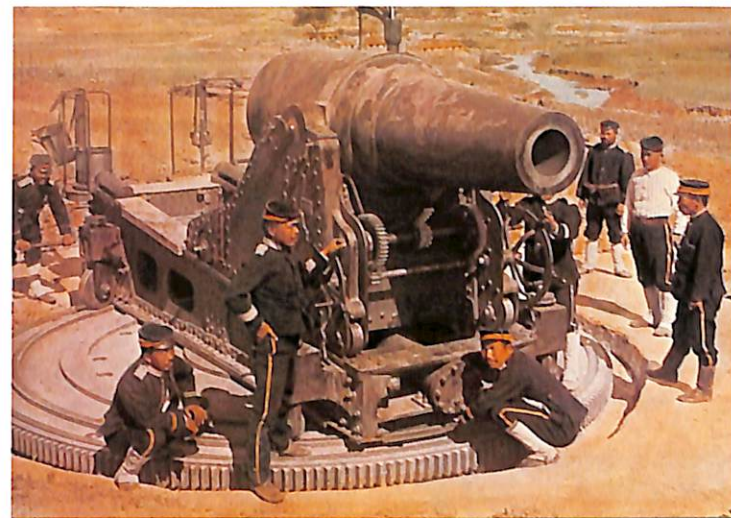
▲**明かりも熱もガスから得た** この頃、東京瓦斯から発売された「両用ガスランプ」が普及した。照明用のガス灯として使用すると同時に、ガスコンロとしても使用できるように作られたもの。ガスが照明用からもっぱら熱用に転化していく過渡期を具現化した、生活用品である。 がす資料館提供

▲**子どもの玩具にも日露戦争** 日露戦争は、子どもの遊びの世界にも深く浸透していった。その典型が、この「日露かるた」である。紙製の帯から、かるたの絵柄、かるたの文句、すべて日露戦争一色だった。日本兵がロシア兵を攻撃する図や、海上をさっそうと進む軍艦の図に、「いくさわ日本が大勝利」「をくびょう風の敵の兵」「りょ順もまたたく陥落し」「ぬいたる日本の太刀の風」などといった文句が並んだ。
日本玩具資料館蔵／小森谷信治

◀**口つき紙巻きタバコが流行した** この年4月1日、「煙草専売法」が公布され、煙草専売局（現・日本たばこ産業）が初めて口つき紙巻きタバコ「敷島」「大和」「朝日」「山桜」の4種類を同時に発売した。このネーミングは、本居宣長の〝敷島の大和心を人問はば朝日に匂ふ山桜花〟の歌から取ったもの。写真は「敷島」。20本入り、8銭。
たばこと塩の博物館提供

［特別企画］貴重カラー・ドキュメント

バートン・ホームズが撮った「乃木と旅順」

世界中を旅していた米国人・ホームズが日露戦争を撮ったのは、明治三七年秋から翌三八年。多くの従軍写真家の中で、彼の異色な点は、写真を人工着色することにあった。ガラス乾板に筆で彩色する方法で、横浜で外国人旅行客に販売する写真などほどこされていた。この技術に着目したホームズは、日本人の職人にその作業いっさいをまかせていたという。

▲28センチ榴弾砲は、本土で艦船攻撃用に使われていたことから、「海岸砲」と呼ばれた。

▼王家甸子の28センチ榴弾砲。最初は6門、後に18門に増強され、椅子山、二竜山、二〇三高地などの激戦で活躍した。

分厚いベトンを撃ち砕いた二八センチ榴弾砲の威力

ベトンで固められた旅順要塞は、日本軍がおもに用いた一五センチ砲や一二センチ砲ではびくともしなかった。そこで大本営は、大砲研究の権威・有坂成章少将の提案により、本土海岸に固定されていた二八センチ榴弾砲を運びこむ。一〇月二六日に始まる二回目の旅順総攻撃で、砲撃の主力となったこの二八センチ榴弾砲は、予想どおり要塞破壊に効果をあげ、ロシア軍のステッセル中将も降伏後、その威力を認めた。

▲日本軍の砲撃で沈没した戦艦「ポベーダ」(1万2674トン・左)と、巡洋艦「パルラーダ」(6731トン・右)。

▼手前は日本軍の砲撃で着底したロシアの軍艦。一部は日本海軍に接収され、日本軍艦として再利用された。

日本軍の二〇三高地占領によってロシア太平洋艦隊は闘わずして壊滅

旅順攻略戦のポイントは、港内が見渡せる「二〇三高地」に攻撃の主目標をおくかどうかにかかっていた。ここを占領して観測所をおけば、港内のロシア艦隊を砲撃できるからだ。事実、日本軍は、一二月五日の「二〇三高地」占領後、一週間ほどでロシア艦隊の壊滅に成功する。

▶日本軍の陣地で炸裂したロシア軍の砲弾。日本兵は、驚くほど正確なロシアの砲台からの攻撃にさらされた。

バートン・ホームズ　The Burton Holmes Collection, Department of Art History, UCLA／デジタルハウス(20～23ページ)

[特別企画]貴重カラー・ドキュメント

バートン・ホームズが撮った「乃木と旅順」

▲砂塵を上げて進むコサック騎兵隊。ロシア軍の中にあって、このコーカサス・バイカル地方出身の兵士は、特に勇猛だったとされる。

▲戦場に横たわる日本軍の戦死者。日本軍は同様の突撃を何度も繰り返し、巧妙に配置されたロシア軍の火器が、それを掃射した。

近代的なロシア要塞を相手に肉弾戦を挑まされた日本兵

日清戦争で〝難攻不落〟の旅順を一日で落とした日本軍は、近代的に改良された旅順要塞についてあまりに無知だった。乃木(のぎ)軍は攻城戦にふさわしい戦略を立てることなく、要塞戦でも一流のロシア軍に、戦術的には負け続ける。結果、日本軍兵士の死傷者は五万九三〇四人にのぼり、ロシア軍降伏後の一月一四日には、乃木が祭文(さいもん)を起草した招魂(しょうこん)祭も行われた。

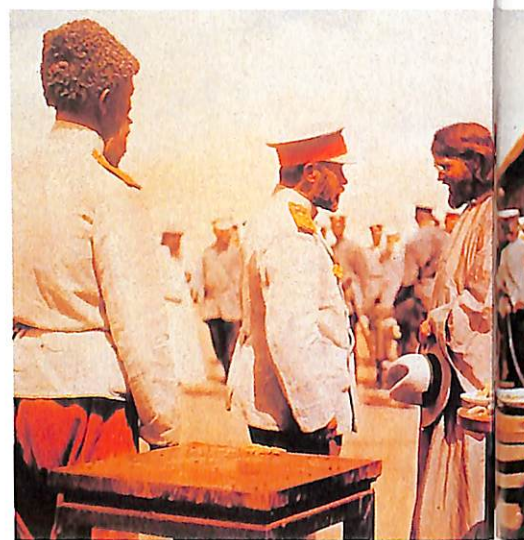
▶散兵壕で一斉射撃の構えをとる日本軍の兵士。あまりの損害に、一二月三日には日露両軍が一時休戦して、遺体の交換収容にあたった。

薩長のバランス人事によって結成された「乃木司令部」

ロシア軍には、快速の巡洋艦を旗艦にして前線へ駆けつけるマカロフ中将などの猛将、知将も多かったが、中には皇帝のニコライ二世に取り入って昇進してきただけの〝愚将〟もいた。

一方の日本軍は、近代戦に弱い乃木の参謀に、薩摩(さつま)出身でドイツ参謀本部への留学経験がある伊地知幸介(いじちこうすけ)少将を配す(長州人の乃木とのバランスから選ばれた)。結果的には、このバランス感覚を優先させた人事が旅順の悲劇を拡大した。

バートン・ホームズ
(1870〜1958)
写真家。米国・イリノイ州生まれ。旅行家のジョン・L・ストッダードとの出会いから、スライドを使って旅行談をするトラヴェローグ(旅行講演)を開始。世界を6周以上まわり、大西洋を30回、太平洋を20回往復した。

▲第3軍の首脳。左から参謀副長の大庭二郎中佐、砲兵部長兼攻城砲兵司令官の豊島陽蔵少将、岡田重久少佐、乃木希典大将、副官の兼松習吉大尉、右端が参謀の安原啓太郎大尉。伊地知参謀長は不在。

▲従軍司祭を激励する、クロパトキン極東陸軍総司令官。早くから秀才の名をはせたが、翌年の奉天会戦でも敗れ、職を解かれた。

人物クローズアップ

岡倉天心（四二）

流出美術品整理と日米友好！ボストン美術館の招待で渡米

▲ボストン美術館東洋部長時代、知人宅を訪れた天心（前列左）。　茨城県天心記念五浦美術館提供

明治三七年二月一〇日、岡倉天心（四一）は門下の横山大観（三五）、菱田春草（二九）らをともない、横浜港からアメリカに向かった。ボストン美術館の招きによるもので、明治一九年の視察旅行に次ぐ、二度目のアメリカ行きである。

日本の美術品は、明治維新以降の文化的な混乱の中で、多くの貴重な作品が海外に流出した。これらを最も多く所蔵していたのがボストン美術館である。しかし、膨大な数の日本の美術品は未整理のままだった。そのため、同美術館では天心を招き、これらの整理とともに、カタログの作成を依頼しようとしたのである。

同年四月、ボストンに入った天心は、さっそく東洋文化と日本文化紹介のための活動を起こした。大観、春草の新作展覧会を開催して、日本美術の優秀さを示すとともに、五月には開催中のセントルイス万国博で、東洋文化について講演。さらに『日本の覚醒』を英文で刊行する。それは、まさに欧米人に語りかけるような内容でアメリカ人知識層の日本理解への、大きな一助となった。折から日本は、日露戦争の真っ最中。戦費調達のため外債募集に腐心している時で、欧米からの支援は命綱だった。天心の活動は、こうした時期の日本に対する、大きな後方支援となったのである。

翌年、天心は同美術館東洋部長に就任する。

岡倉天心は、文久二年（一八六二）一二月二六日、現在の横浜市本町生まれ。本名は角蔵（後に覚三）。父・勘右衛門は越前福井藩士で、藩命により横浜で生糸商をいとなんでいた。幼い頃から英語を耳にしていた天心は、七歳でアメリカ人の塾に入り、英語を学ぶ。

明治八年、東京開成学校（一〇年に東京大学に改称）高等普通科に入学。一三年、東京大学文学部を卒業し、文部省に入省したが、天心は在学中、赴任して来たばかりのフェノロサ教授と知り合い、その日本美術研究を助けた。このフェノロサとの出会いが天心の将来を決定づけ、そして日本の近代美術の歴史を作りあげることになる。

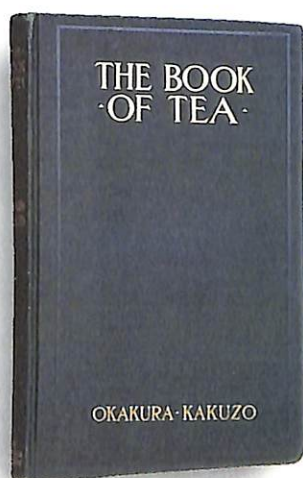
天心が後世に残した功績は数多いが、そのひとつに美術学校の設立がある。岡倉天心の研究家で、東京芸術大学美術学部教育資料編纂室の吉田千鶴子氏は、天心の功績をこう語る。

「同じレベルの功績はいろいろあると思いますが、私は、学校教育によって美術を育てたこと、すなわち美術学校の設立が最大の功績と考えます。特に工芸の分野などは、それまでは徒弟制度だったのですから」

天心らを中心に東京美術学校（現・東京芸術大学美術学部）が開校したのは明治二二年。そして翌年、天心はその校長に就任した。しかし、女性問題や中傷が天心を襲い、三一年、東京美術学校を辞任。同時に橋本雅邦、横山大観、菱田春草ら、天心を師とする教職員一七人も連名辞職した。いわゆる「美術学校騒動事件」である。野に下った天心は、同年七月、日本美術院を設立、美術運動の推進に尽力する。

天心の後半生は、おもにボストンと日本との往復についやされた。『日本の覚醒』に続いて、『茶の本』を英文で執筆。東洋文化と日本文化の独自性を世界に伝えるとともに、国内では文化財の保護につとめている。

大正二年九月二日、以前から苦しんでいた腎臓病が悪化、それに心臓発作を併発して死去。まだ五〇歳という若さであった。

▲明治三九年五月に刊行された『THE BOOK OF TEA』（『茶の本』）。東洋の美と調和の精神を紹介。

▲インド旅行中に執筆の『THE AWAKENING OF JAPAN』（『日本の覚醒』）を明治三七年刊行。

茨城県天心記念五浦美術館提供（2点とも）

▲ボストン美術館に勤務していた頃、天心はアメリカと茨城県五浦（いづら）の別邸を往復し、精力的に仕事をした。写真はボストン美術館の中庭で。　茨城県天心記念五浦美術館提供

決定的瞬間

ラマ僧に扮して敵中突破！軍需鉄道の爆破をはかった二人の「軍事密偵」が銃殺に

◀4月21日、ハルビンで銃殺刑に処せられる「軍事探偵」の横川省三（左）と沖禎介（右）。

毎日新聞社

日露開戦からおよそ二ヵ月後。ロンドン発の「時事通信」は、満州（中国東北部）チチハル付近で鉄道橋梁の爆破を行おうとしていた大木、福岡なる二人の日本軍将校が、ハルビンにおいて銃殺刑に処せられたことを伝えた。

明治三七年五月四日付の「東京朝日新聞」は、この二人のうち「福岡」と称する将校が同新聞の元記者・横川省三（三九）と判明したことを報じている。もう一人は沖禎介（三〇）。二人は北京公使館の嘱託職員、実は軍の特務班所属の軍事探偵（特殊工作員）であったという。

横川、沖はチベットのラマ僧に扮して、四人の学生とともに、日露開戦まもない二月二一日、北京を出発。当時、ロシアの勢力圏にあった満州の奥深く、チチハル郊外をめざした。その目的は、当時のシベリア鉄道終点のチタから満州のハイラル、チチハル、ハルビンを経てウラジオストクにいたる東清鉄道の鉄橋爆破と、軍用電話線の切断などによるロシア軍の後方攪乱であった。

日本は、当時〝世界第一の陸軍国〟と評されたロシアに対して短期決戦で勝利をおさめ、有利な条件で講和に持ちこむことをめざした。ロシア軍の戦備は日を追うごとに増強される。その唯一の弱点は補給路が長く、シベリア鉄道、東清鉄道など鉄路に限られることである。満州での一大決戦を前に、補給路の寸断などの妨害工作を行うことで補給を遅らせ、作戦を有利に導こうという秘密作戦が実施されることも、ある意味では必然と言えるものであった。

一九九〇年代に入って公開された当時のロシア軍関係資料の中に、北京を出発した日から四月一二日、逮捕当日までの行動を記した横川の日記が含まれている。

横川の日記は逮捕当日の「午前七時出発。午前七時半、初めて前方に鉄路を目撃。午前九時四十分……河畔にて朝食を取り……」という内容で締めくくられている。起訴状によれば、その数時間後、昼食をとっている最中、アムール軍管区所属の独立国境警備軍第二六小隊の騎兵斥候によって逮捕され、隠し持っていた爆発物や武器が押収されたのだという。

銃殺刑に処せられたのはこの年の四月二一日。処刑を前にプロテスタントの横川は、聖職者による「山上の垂訓」の朗読を求めた。聖書を開き日本語で「山上の垂訓」を唱和した横川は、最後の礼拝を行った後、沖とともに刑場に赴き、みずからの死を迎えたと、同年八月一三日付の「東京朝日新聞」は報じている。そして、その死は「父ハ天皇陛下ノ命ニ依リ」で始まる娘にあてた横川の遺書とともに報じられ、多くの人々の涙を誘った。

▲ロシア軍に捕らえられた横川省三（中央左）と沖禎介（その右）。

毎日新聞社

横川の経歴は実に波乱に富んでいる。慶応元年（一八六五）、南部（盛岡）藩士・三田村勝衛の三男として生まれた横川は、中学卒業後教職についたが、その後まもなく自由民権運動に身を投じ、加波山事件（一八八四年）に連座して逮捕される。その後、「東京朝日新聞」の記者として日清戦争に従軍した後、米国へ留学。さらに熊本移民会社の社員としてハワイに赴任した後、再び職を辞して駐清公使・内田康哉（後の外相）に随行し中国へ渡る。

明治三五年には蒙古（モンゴル）縦断旅行を決行するなど、冒険家としても知られるようになっていた。

沖禎介は、明治七年、旧・肥前平戸藩士、沖荘蔵の長男として生まれ、東京専門学校（現・早稲田大学）中退後、当時、三国干渉に憤慨して対露開戦を主張していた内田良平の主宰する黒竜会に入会し、大陸へと渡り、北京で教師として中国人子弟の教育にもあたったという。横川、沖二人の接点も、この時期の北京にあることは言うまでもない。

日本政府は処刑された両人に勲五等を授け、遺族に対して一五〇〇円を下賜した。明治四一年に建立された東京・護国寺の「報国六烈士之碑」では横川の名も六烈士の一人として刻まれている。軍国主義の流れの中で、愛国の志士とされることになっていったのである。

美の出会い

悲しみを描く「軍人の妻」ヒューマニズムを訴えた日露戦争従軍画家の心情

明治三七年二月、日露両国は戦争に突入した。その四ヵ月後の六月三日、いよいよ本格的な戦闘を迎えるにあたって、軍部は文学者や画家に対し、従軍を優遇するむねを発表した。

「今回の日露戦争は、新聞記者といえどもみだりに従軍をゆるさず、大いにその人格を調査するくらいなるを以て、普通見物に類する従軍者はなるべくこれを拒絶し来たりしも、戦況を絵図、詩文に写してこれを永く後世に伝えんとするものには戦局の進むに従い、なるべく従軍に便利を与うるその筋の方針なりと云えば実戦写生の希望ある人は、予めその用意をなす必要あるべし」

こうした呼びかけはあったが、日清戦争に比べると、従軍した画家は少なかった。日清戦争では、戦争の様子を描いて人々に知らせるのも、画家の重要な役割であるとして、積極的に従軍を希望する画家が続出。小山正太郎や浅井忠ら洋画家だけでなく、久保田米僊らの日本画家も参加した。しかし今度の日露戦争では相当の苦戦が予想され、画家たちも前ほど積極的になれなかった。すでに五月二五日から二六日にかけての戦闘では、日本軍は四三〇〇人もの死傷者を出していた。また、日本の美術界も、印象派・後期印象派など、ヨーロッパ美術の影響が浸透し、画家たちのテーマも、次第に個人的な感性を重視する方向に変わりつつあったのも一因である

日露戦争に従軍した画家の中には、山本芳翠（五四）、東城鉦太郎（三九）、小杉未醒（二二）らの顔があった。中でも芳翠は、日清戦争の時に明治天皇の勅命で戦場に赴いた従軍画家の第一号だった。

山本芳翠は明治九年に開校された工部美術学校で、浅井忠、小山正太郎らとともにフォンタネージに学び、画家としては日本で最も早い時期にヨーロッパ留学をはたしている。日清・日露とも、戦争画と言えば、この工部美術学校や小山正太郎の画塾・不同舎で学んだ系統の画家たちのほとんど独壇場であった。彼らはフォンタネージや歴史画の大家・ローランスを通して、一九世紀前半のヨーロッパ美術界の主要な課題であった風景画や歴史画の技法を学び、正確な再現を志すデッサン力を徹底して身につけていたのである。

芳翠は日露戦争では従軍少尉の待遇で迎えられ、二度ほど戦地に赴いて、一二枚の水彩画を宮中に献納した。そのうちの一点「仁川沖海戦図」（明治三七年）は、軍艦は描かれているものの、一種の海洋風景画とも言える。また「唐家屯月下歩哨図」（明治三九年）には、兵が一人点描されているが、山と木立の風景画のようにも見える。

また、日露戦の戦争画の代表作として、かならずあげられるのが、海戦図の第一人者とされる東城鉦太郎の「三笠艦橋の東郷大将以下」である。この絵は大正一二年から歴史の教科書「尋常小学国史」に載せられ、一躍国民の間に知られるようになった。東城自身、従軍してはいるが、この絵は従軍中のものではなく、明治四〇年に海軍省から依頼されて描いたものである。司令部の一室で軍人から服装や武器の使い方、戦況などを教えてもらい、スケッチした風景をもとに制作された。この作品については、美術評論家の植村鷹千代が『現代美の構想』（昭和一八年）の中で、次のように記している。

「皇国の興廃此の一戦に在りとの当時の涙ぐましい緊張振りがあの絵の表情をいたましいまでに蔽つてゐる」

一方、日露戦を描いた作品の中には、日清戦争や後の第二次世界大戦の時とは異なる側面も見られる。反戦とも厭戦ともとれる内容の絵が描かれ、発表されていたのである。戦争画が大好きだという小山正太郎の画塾・不同舎で学んだ小杉未醒の「露国負傷兵の苦鳴」（明治三七年）は、病床のロシア兵の頭部をスケッチしたもので、苦痛にあえぐ若者の訴えを聞き取ろうとするような作品である。同じ不同舎にかよった満谷国四郎の「軍人の妻」には、戦死した夫の形見の前で、悲しみにくれる妻が描かれている。これらの絵について早稲田大学文学部教授・丹尾安典氏は、河田明久氏との共著『イメージのなかの戦争』（岩波書店刊）の中で記している。

「日清戦争から一〇年の間に、世の中の意識にも変化があらわれはじめた。社会的な思潮もはぐくまれ、個々人の近代的自我も徐々に成育していった」

詩歌の世界でも浪漫派全盛で、与謝野晶子が「君死にたまふこと勿れ」を発表した時代である。人々の心には、日本の勝利をたたえる気持ちとともに、敵味方を問わず死者を傷むヒューマニズムの心情が生まれていたのである。

▲山本芳翠「二百三高地」。明治38年頃。2度目の従軍の際に、前線の兵士から聞いた戦況をもとに描いた作品。細部まで明確に描こうとするのが芳翠の画法である。

▼東城鉦太郎「三笠艦橋の東郷大将以下」。油彩。明治40年、「三笠」艦長・伊地知彦次郎の記憶をもとに制作された。関東大震災で焼失したが、後に東城自身の手で再現される。

▲満谷国四郎「軍人の妻」。明治37年。油彩、80.2 ×137センチ。満谷は日露戦争には従軍しなかったが、この作品のほかにも写真や新聞のニュースをもとに、国木田独歩の「戦争画報」などに、写真では不可能だった戦況を数多く描いた。 福富太郎コレクション蔵

20世紀博物館

夕張市石炭博物館

「地下一〇〇〇㍍」の坑道を歩きながらリアルに炭鉱の歴史をたどる

北海道・夕張市

桑原茂夫

北海道・夕張は炭鉱の町だった。この町では明治二三年以来一〇〇年間にわたって、貴重なエネルギー資源を掘り出してきたが、その炭鉱も今は閉じられ、跡地は「石炭の歴史村」になっている。炭鉱はすでに歴史の中で語られるものになってしまったのである。しかしその歴史は文献などに埋もれさせるものではなく、可能な限りリアルに表現させたいというところから「夕張市石炭博物館」が生まれた。実際に採炭されていた地下の坑道を歩きながら、炭鉱の歴史を知るという等身大の博物館なのである。

館長の青木隆夫さんによると、若い人にとって石炭は未知のものだから、石炭がどういうものなのか、そこから始めなければならないのだという。それで、この博物館では、採掘された大きな石炭の塊を入り口近くにおいたり、石炭のもとになった太古の植物を展示して見せたりして、まず石炭そのものをイメージさせる。次に、かつて家庭や学校で燃料として使われていた様子などを展示して、石炭が生活の中に深く入りこんでいたことを理解させようとしている。

ところで、石炭ストーブの脇においてあるバケツが、粉末で一杯だったので、青木館長に「これは何か」と聞いた時の答えが面白かった。親子連れなどで来た人が、石炭を知らない子どもたちに向かって「昔は、こんなふうに石炭をくべて教室を暖かくしたもんだ」などと説明しながら、石炭をシャベルですくう動作を繰り返してみせるものだから、石炭が砕けて粉末になってしまったというのだ。

石炭があった日々を突然記憶に蘇らせた多くの人が、思わずシャベルを手にしたくなったのだろう。

さてこのような展示を経て、いよいよ地下坑へと向かうことになる。

地下坑へはエレベーター（炭鉱では「立坑ケージ」と呼ばれていた）で行く。地下一〇〇〇㍍まで、一分半たらずで一気に降下するという設定で動き出す。実際には二十数㍍の深さなのだが、かなりのスピード感をともなって降下し、行き着いたところから坑道の博物館が始まる。

坑道にそって、歴史をたどったり、採炭技術の詳細を見ることができるのだ。

初めの方で、明治、大正、昭和と変化してきた坑内の様子が見られるが、明治・大正期には、女性も坑内に入ってさまざまな仕事をしていたことを知って驚かされた。掘った石炭をかき集めたり、坑内の風をコントロールする板戸の開閉を行ったり、安全灯の保守管理をしたりしていたのである。

さらに進むと、キャップランプのついたヘルメットをかぶって薄暗い坑内を歩くことになる。いろいろな保安設備や、坑内を支える柱の設置システム、機械化された採炭の様子など、まさに炭鉱の〝現場〟を見ながら進むのだが、地下深くで大自然に挑んできた人間の営みの「すごさ」を、身近に感じることができるミュージアムであった。

●夕張市石炭博物館
夕張市高松七—一
☎〇一二三五—二—三四一七
JR夕張駅から徒歩二五分、バスで一〇分
開館時間＝九時半〜一七時
休館日＝年末年始
入館料＝一般八〇〇円（炭鉱生活館、SL館など、石炭の歴史村共通券は二五〇〇円）

▲かつては馬も坑内に入って、運搬の役割を担っていた。右にいる女性は、坑道のドアの開閉を管理していた。

▼かつての坑道出入り口のひとつ。背後に、石炭の露頭が見える。この大きな露頭の発見から、夕張炭鉱100年間の歴史が始まった

▲リスクの多い炭鉱で働く人たちには、独特のしきたりがあった。親分・子分の関係である「友子」もそのひとつ。これは、その〝固めの盃〟を交わす場面。右が親分である。

▲機械化された装備を背景にした、採炭現場の様子。石炭の層が重なっているのもはっきり見える。

三井呉服店が株式会社組織への決断
創業230年の老舗が「デパートメントストア宣言」
日本初の百貨店「三越」誕生！

▲三越呉服店の呉服売り場。百貨店と言うにふさわしく、多種類の商品が陳列されていた。まだ全館畳敷きで、下足を預かった。 三越提供

明治三七年末、明治維新のスポンサーで、その後、巨大財閥としての歩みを進めていた三井グループの中核・三井呉服店が、三越呉服店と改称し、近代的なデパートへの脱皮を宣言した。日本初の近代的百貨店が誕生したのである。数々の斬新な手法を取り入れた三越は、その後長く流通業界の王座を占め続ける。

三越呉服店発足は〝流通ビッグバン〟だ

「当店販売の商品は今後一層その種類を増加し、凡そ衣服装飾に関する品目は、一棟の下にて御用弁じ相成候様設備致し、結局米国に行なわれるデパートメントストアの一部を実現致すべく候」

日露戦の最中の明治三七年暮れから翌年始にかけ、主要新聞に、こんな全面広告が掲載された。「合名会社三井呉服店」を「株式会社三越呉服店」に変更すると同時に、日本初の欧米流デパートをめざすというメッセージ、「デパートメントストア宣言」が行われたのである。

二三〇年以上の伝統を持っていた三井財閥は、明治維新にあたって薩長のスポンサーとなり、維新後大きく飛躍をとげ

▶三越呉服店の専務取締役・日比翁助。三越呉服店を近代的な百貨店に脱皮させた。 三越提供

▲明治42年にはメッセンジャーボーイ(写真)が登場。欧米のデパートでの制度を取り入れ、〝機敏なサービス〟をモットーに、無料配達に活躍した。 三越提供

▲「デパートメントストア宣言」をした当時の三越呉服店。4年後の明治41年には、新店舗が完成。営業品目もふえ、百貨店化が進んだ。 三越提供

ていた。だが、鉱山経営や金融、貿易で財をなした三井グループにとっては、実は呉服店はうまみのない事業だった。「今度、儲からない呉服店を三井が捨てることになった」

三井銀行営業部長の池田成彬（三七＝後に日銀総裁）に、三井呉服店の日比翁助支配人（四四）がこう泣きついたのは、明治三七年の秋のことだった。

「で、どうなんだ」と業績を聞く池田に、日比は、「儲かってない」と応じている。それが赤字を意味するのか、利幅が薄かっただけなのかはさだかでない。

結局、不安だった運転資金は三井銀行が面倒を見ることになり、急遽発せられたのが「デパート宣言」であり、三越はこの「宣言」とともに三井グループを離れ、株式会社として新出発したのである。資本金は五〇万円、株主は三〇人だった。

「だが、外部から見れば、特に目立つ変化をともなうものではありませんでした。店舗が新築されたわけでも、大幅な内装替えをしたわけでもない。しかしこの『宣言』は、現在の〝金融ビッグバン〟にも匹敵する、いわば〝流通ビッグバン〟とも言えるものでした。そして白木屋、松屋、松坂屋、十合など、有力小売業が続々デパートに進出する狼煙となったのです」（経営評論家・梶原一明氏）

維新以降の三井呉服店は、数々のイノベーションを進めていた。たとえば、明治二〇年代後半に、従来の、商品をしまっておき、客が来ると取り出して勧めるという「座売り」から、「陳列方式」に転換した。つまり、顧客が商品を自由に選べるようにしたのである。また、革新的なデザインの品を次々と発表し、意識的に流行を作り出した。「呉服切手」と称する商品券を発行し、女子店員の採用にも踏み切った。

さらに、積極的な広告戦略も活用された。主要な駅に等身大の美人画を掲げ、配達用自動車のボディに「日本橋駿河町三井呉服店」と大書して、市中を走らせた。それは、新しもの好きの江戸っ子に強くアピールする「動く広告塔」だった。また、店内にトイレを設けたのも、女性客の吸引に大きく寄与した。それまでの盛り場は、トイレの苦労のため、女性客が寄りつかなかったからである。

このように、三越は、すでに「デパート宣言」に先行して、情報発信を軸としたイノベーションを進めていたのである。「デパート宣言」は、これをさらに進め、大胆で斬新なデパート化へ突き進むことを対外的に明確にしたものだった。

▲明治36年、2600円で購入されたフランス製の配達自動車「クレメント号」。

ハロッズをモデルにして近代的な百貨店へ脱皮

日比の率いる〝新生三越〟は順調に滑り出した。明治三八年にはオリジナルブランドの〝元禄模様〟が大ヒットとなる一方、純益の三割をボーナスにあてる方針で従業員の士気を高めることに成功した。当時としては画期的な従業員の持株制度も導入する。このため、従業員の企業意識と団結心はきわめて強いものとなった。それまでは利益が出ても、店の儲けとなるばかりだったため、店員の士気が沈滞していたのだ。〝会社本位資本主義〟という日本の企業社会の雛型を作りあげたのは三越だったとも言える。

そして明治三九年、日比は本格的なデパート経営視察のため、欧米に旅だった。同年一一月に帰国した日比は、ロンドンのハロッズを手本として店舗の新築に着手する。木造だがルネサンス式の洋風建築で三階建て、売り場面積は約五〇〇〇平方メートル、店内はヨーロッパ感覚でアレンジされ、一階にはショーウインドーが設けられた。

「デパート宣言」が現実となったのである。おもな顧客層は新興富裕階級で、「今日は帝劇、明日は三越」という大ヒットコピーも生まれた。

だが三越は、富裕階級だけにターゲットをしぼっていたわけではない。高級イメージを保ちつつ、鍋釜や衣料、日用品の特価バーゲンによる大衆化路線をも併用した。きわめつけは、食堂・遊戯施設の併設により、子どもたちから不動の人気を得たことである。

銀座の老舗の天麩羅屋の息子に生まれた、慶応大学教授でNHKの解説委員などもつとめた故・池田彌三郎は「み・つ・こ・し」に連れていってもらうことは、今の子どもには想像もできないほど「異様な刺激を持ったこと」で、「連れていくと聞いただけで有頂天になってもいいところ」（『日本橋私記』）と書き残している。

「近代のデパートは、産業革命の落とし子として、大量生産・大量消費の時代にマッチした消費システムとして生まれました。三越はそのシステムを先駆的に取り入れた日比らが、重工業中心の第二次産業革命期の日露戦争を契機に、重工業化を急ぐ三井グループから独立させ、近代的な百貨店第一号へ革命的に変革させたのです」（『三越物語』の著者・梅本浩志氏）

三越は、以降、日本の流通業界で主役の地位を保ち続けることとなる。

▲東京勧業博覧会の開催を機に、明治40年4月1日、食堂を開設。 三越提供

7~8月

フォト＋日録で再現する366日

▶**蔚山沖海戦で雪辱(8月14日)** 輸送船の被害続出で非難が激化する中、第2艦隊がウラジオストク艦隊を撃破。写真は、沈没した「リューリク」から救助されたロシア水兵。

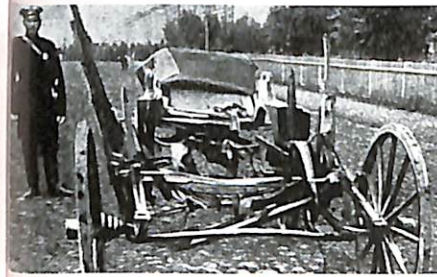
「日露戦役海軍写真帖」

毎日新聞社

▲**満州軍総司令部(7月4日)** 前月、実戦部隊を統合指揮するために特設。この日、宮中で天皇の激励を受けた。写真は記念撮影。総司令官・大山巌、総参謀長・児玉源太郎、陸軍参謀総長・山県有朋ら。

▶**横浜正金銀行本店が新装(7月)** 横浜市に西洋建築技術の粋を集めて完成(現・神奈川県立博物館)。設計は妻木頼黄・遠藤於菟。破竹の勢いで伸びる同行を象徴した。

▼**初の2階建て電車(7月)** 前年9月に大阪の花園橋─築港間で開業した市電に登場。運賃は往復8銭だった。写真は市岡第一橋付近。右端の建物は旧制市岡中学校。

「戦時画報」

▲**ロシア内相・プレーベ暗殺(7月28日)** 民衆運動への過酷な弾圧に、エス・エル党員が報復。ペテルブルグの停車場で爆弾が投げられた。写真は大破した馬車。

東京芸術大学提供

▲**青木繁、東京美術学校卒業(7月)** 写真の2列目右から4人目が師・黒田清輝。最後列右から二人目が青木。この夏、千葉の海岸に遊び、傑作「海の幸」を描いた。

明治37年7月

1(金)●タバコが完全専売となり、新製品七種発売。
2(土)●奇術の松旭斎天一が独・英で大好評と新聞に。
3(日)●清の宋教仁ら、武昌に「科学補習所」を結成し、革命を鼓吹(後、蜂起はかり失敗、日本に亡命)。
4(月)●夕張炭坑でガス爆発、一八人死亡。
5(火)●大阪の育英女子高等小学校で「御真影」を紛失し、大騒ぎとなる。
6(水)●米国で黒人が自由党結成大会。大統領選に、初の黒人候補、ジョージ・テーラーを指名。
7(木)●戦地で傷兵治療を希望する東京医大生を選抜。
8(金)●横浜八商貿易連合会、清に販売店設置決める。
9(土)●内務省、横浜電鉄の横浜─神奈川間を認可。
10(日)●旅順陥落祝勝用花火の注文が殺到、と新聞に。
11(月)●静岡県に豪雨、安倍川など多数の河川が決壊。
12(火)●海軍、バルチック艦隊が到着する前に旅順を攻略するよう、陸軍に要請。
13(水)●清国、上海─南京間鉄道敷設公債二五〇万両をロンドンで発行。
14(木)●満州軍総司令部、大連に上陸。
15(金)●浄土真宗が、ロサンゼルスに米国初の仏教寺院を創建。
16(土)●露軍艦、紅海で、日本に友好的と見られる英・独の商船を圧迫(英の抗議で中止)。
17(日)●三池炭坑万田坑の坑夫が待遇改善要求しスト。
18(月)●軍事当局の新聞記者への圧迫に対抗するため、新聞一五社が記者クラブを結成。
19(火)●「軍事講談師」松林伯鶴に従軍許可、と新聞に。
20(水)●ウラジオストク艦隊、津軽海峡を抜け太平洋に進出(後、汽船など五隻撃沈)。
21(木)●農商務省、横浜火災運送保険会社に初の信用保険業を認可。
22(金)●警視庁、京浜電鉄の七五人乗り車両を認可。
23(土)●日本鉄道、五日間有効の日光回遊乗車券発売。
24(日)●広島県宇品港から従軍記者三〇人が出発。
25(月)●北越鉄道で、褒賞金ほしさに保線作業員が列車妨害。この頃各地で頻発する。
26(火)●第三軍、旅順周辺の露軍前進陣地を攻撃。予定を約一ヵ月早めて本格作戦に入る。
27(水)●山形・仙台地方に暴風雨、出水で鉄道不通。
28(木)●露の内相、エス・エル党員のテロで死亡。
29(金)●ウラジオストク艦隊太平洋進出以来の日本の海運損害は一五〇〇万円余、と新聞に。
30(土)●横浜電鉄が六〇回四割引の回数乗車券発行。
31(日)●戦争景気で郵便貯金が前年比八割増と新聞に。

オリオン・プレス

▶**セントルイス五輪、「陸上競技」始まる(8月29日)** 五輪は万博の余興として、5月開幕、半年間続いた。参加10ヵ国496選手中431人が米国人だった。写真は障害物競走のたる抜け。

▼**黄海海戦で露艦隊大敗(8月10日)** 東郷大将率いる連合艦隊が迎撃。旅順からの脱出をはかる露軍の意図をくじいた。写真は、この海戦で損傷した「三笠」。

呉市企画部海事博物館推進室提供

▲**英国でバイクツーリング流行(8月)** ドイツのダイムラーが1885年に発明して以来、金持ちの大人の遊びとして浸透。写真は、クラブの早朝出発風景。英国ではこの年、番号登録が義務づけられた。

北川太一提供

▼**片山潜、第2インター副議長に(8月14日)** アムステルダムで開かれた第6回大会で選任。写真前列4人目が片山(44)。右は露代表・プレハーノフ。「共通の敵は帝国主義」と固い握手。

▲**赤城山の高村光太郎(8月)** 父の産土神を縁にしばしば滞在。11月、「明星」に「赤城山の歌」を発表。21歳。写真は新詩社一行と。右から3人目・光太郎。左から二人目・与謝野鉄幹。

▲**菊池大麓、学習院院長に就任(8月4日)** 前年、教科書疑獄事件で文相を引責辞任。復権をはたした。49歳。後に京大総長、帝国学士院長を歴任。数学者としての業績も多い。

明治37年8月

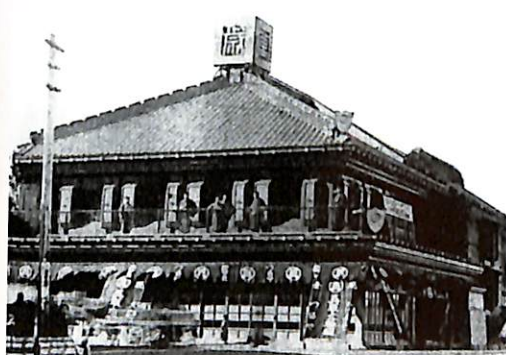
1(月)●三菱長崎造船所、全長七五㍍の船台を新設。
2(火)●米国で人造絹糸の需要増大、と新聞に。
3(水)●甘藷が豊作で、九月には一貫目一〇銭以下の安値になりそう、と新聞に。
4(木)●学習院院長に元文相の菊池大麓が就任。
5(金)●琵琶湖の武徳会ボート大競漕会が、中国・四国からの参加もあって大盛況、と新聞に。
6(土)●文相、道府県に学校樹植栽奨励を訓告。
7(日)●「平民新聞」、トルストイが「ロンドン・タイムズ」に執筆した「日露戦争論」の全訳を掲載。
8(月)●文相、有害色素を含む紫色鉛筆の使用を禁止。
9(火)●東京市京橋区衛生会、新富座で衛生演説会。
10(水)●黄海海戦。旅順脱出をはかった露艦隊が連合艦隊の迎撃を受け、勢力半減、旅順に戻る。
●力士の渡米計画が不許可。「米でこれに匹敵するのは賤技・拳闘のみ。日本の恥」が理由。
11(木)●東京府知事、代用小学校の廃止を指示。
12(金)●七月までの赤痢は前年比五九二人減と新聞に。
13(土)●桂田富士郎が風土病の病原虫を発見。日本住血吸虫と名づける。
14(日)●第二インター第六回大会、日露戦反対を決議。
●蔚山沖海戦。上村彦之丞指揮の第二艦隊が、ウラジオストク艦隊と遭遇し圧勝。
15(月)●英で児童虐待禁止法が成立。
16(火)●川上音二郎が提灯行列を自分の興行の宣伝に使い顰蹙をかう、と新聞に。
17(水)●台湾総督府が南北米に糖業視察派遣と新聞に。
18(木)●西日本に干ばつ、各地で飲料水と電気が不足。
19(金)●第三軍が第一回旅順総攻撃(〜24日。失敗)。
20(土)●両国川開きに「敵艦爆破仕掛花火」が登場。
21(日)●甲武鉄道の飯田町─中野間で電車運転開始。
22(月)●第一次日韓条約に調印。日本が韓国の財政・外交権を事実上掌握。
23(火)●新潟県小木町で大火、四四四戸焼失。
24(水)●露がバルチック艦隊の極東派遣を決定。
25(木)●阪鶴線の福知山─舞鶴間開通。
26(金)●小樽の劇場・住吉座の桟敷が崩落し五人重傷。
27(土)●米国で、スピード違反逮捕第一号。
28(日)●遼陽会戦始まる。第一・二・四軍が遼陽の露軍陣地を総攻撃。
●屏風・軸物作りに経師屋が多数渡韓と新聞に。
29(月)●戦時の軍事電信工事手当は月額一五〜三五円。
30(火)●神戸の満韓売薬商会、京釜線沿線で行商開始。
31(水)●東京に義勇艦隊創設委員会発足。

◀「経営の神様」丁稚奉公(9月) 後年、松下電器を創立した松下幸之助が、大阪で初就職。9歳だった。写真は翌年、自転車店店主夫人と。5年余の間に商売のいろはをおぼえた。

▲島崎藤村(32)、『藤村詩集』を刊行(9月4日)『若菜集』など青春期の4詩集をまとめ、序文に「新しき言葉はすなはち新しき生涯なり」と記した。『水彩画家』のモデル、丸山晩霞(右)と。

▲戦勝記念絵はがき発売(9月6日)前月来の遼陽会戦にやっと決着、露軍は敗走。2万人以上の死傷者が出る激戦だったが、国内はお祭り騒ぎとなった。

▶日韓協約反対!(9月30日)日本推薦の政府顧問が義務づけられるなど日本の韓国支配が強まり、怒った民衆が漢城(現・ソウル)の日本商店を破壊した。

▶高松港の鉄道桟橋完成(9月) 明治30年起工。港内浚渫、防波堤築造も併せて完成。築港の先端にアーク灯、堤防には多数の白熱灯を点灯した。写真は、大正初期の桟橋と連絡船。

◀鶴屋(後の松屋)戦勝祝賀(9月)前年、横浜に完成した新店舗の屋根に、「万歳」の大看板。新装とともに、2階は座売りから陳列式販売に移行していた。

松屋提供

明治37年9月

1(木)●与謝野晶子が旅順包囲軍中の弟を案じる「君死にたまふこと勿れ」の詩を「明星」に発表。

2(金)●東京市街鉄道が、日露戦争「祝捷」のイルミネーション電車を運転、人気を集める。

3(土)●「大阪朝日新聞」が「天声人語」で、皇室の歌あり、国民の歌なしと「君が代」について書く。

4(日)●日本軍、遼陽を占領。日本側の死傷者二万三五三三人、ロシア側約二万人。
●島崎藤村、『藤村詩集』を刊行。

5(月)●米が大豊作で平年より八五〇万石増と新聞に。

6(火)●逓信省、日露戦争記念絵はがき五三万枚発売。

7(水)●英・チベット、ラサ条約締結。英は権益を入手し、ロシアの南下政策を阻止。

8(木)●塩原滞在中の皇太子が地元農家から珍しい西洋野菜を買い上げ、宮中への土産とする。

9(金)●ニューヨーク市に初めて騎馬警官が登場。

10(土)●陸軍省が俘虜労役規則を制定。準士官以上は任意労役、下士官・兵は強制労役。

11(日)●東京・本郷に東洋植民学校開校。

12(月)●青森監獄で赤痢が流行、患者六〇人、死者七人。

13(火)●新たな捕虜は金沢・福知山に収容、と新聞に。

14(水)●東京移民会社、外務省にマニラ移民を申請。

15(木)●伊全土で社会党主導の大ゼネスト。ミラノでは暴動化して軍隊と衝突、死者三人を出す。

16(金)●小田原電鉄の電力を電灯に盗用の四人を告発。

17(土)●関東一帯に暴風雨、中央線でトンネル崩壊。

18(日)●政治学者・浮田和民が「自決するより生きて捕虜となれ」と講演、論議を呼ぶ。

19(月)●大阪三品取引所の定期綿糸が開所以来の暴騰。

20(火)●ライト兄弟が「フライヤー二世号」で一キロを越える飛行に成功。

21(水)●陸軍被服廠、東京監獄に裁縫作業を依頼する。

22(木)●衛生材料廠が「征露丸」など全力製造と新聞に。

23(金)●米東部の小麦作柄四割減で相場騰貴と新聞に。

24(土)●東海道本線の舞阪—鷲津間で複線工事竣工。

25(日)●アフガニスタンのカブール—カンダハル間で日光反射信号による定期通信を開始。

26(月)●群馬県強戸村の鉱毒被害民が各省に請願。

27(火)●為替一四〇〇円を盗んだ郵便配達人を逮捕。

28(水)●愛国婦人会が事務所新築、会員約一二〇万に。

29(木)●徴兵令改正。後備兵役を五年から一〇年、補充兵役を七年四ヵ月から一二年四ヵ月とする。

30(金)●戦死届に死亡診断書の添付がないため、戸籍吏が手続きせず問題化、と新聞に。

◀早・慶、激突(10月30日)早大が12対8で勝利。官学一高打倒を目標に研鑽してきた両校が、この年相次ぎ夢を実現。両者の戦いは「天下の早慶戦」となっていた。写真は戸田球場での記念撮影。

▼南方熊楠、田辺に定着(10月)粘菌類などの植物調査を終え、再度の海外遊学の夢を抱いたが、2年後には結婚、父ともなり、生涯の友も得た。写真は近所の子どもたちと。

平凡社提供

▼米紙がミキモトパール紹介(10月9日)「日本の真珠文化」として「ニューヨーク・ヘラルド」が養殖場などをリポート。創設者・御木本幸吉は後に真円真珠を生産、「真珠王」と称された。

▶明大、清国留学生に経緯学堂開校(9月)「東亜先聖の教を以て経と為し、欧美百科の学を以て緯と為す」を掲げ、錦町に創立。修業年限3年。明治43年廃校までに、2862人が学んだ。

明治大学提供

▲ニューヨークに地下鉄開通(10月27日)市役所前—145丁目間が完成。タイムズスクエアは午後7時の開業を待つ市民であふれた。写真は1月、実験車両で行われた試走式。

CORBIS-BETTMAN/PPS

▼野口英世、ロックフェラー研究所員に(9月)所長の師・フレクスナーから若さと野心をかわれた。写真前列右から二人目が野口、その左後ろが所長。7年後、梅毒スピロヘータの純粋培養に成功。

野口英世記念会提供

明治37年10月

1(土)●政府の明年度予算に対し、東京に教育費削減反対同盟成立。

2(日)●閣議、山陽・山陰連絡線の早期完成を決定。

3(月)●仏・スペイン、モロッコ独立を承認。密約で同国を事実上分割支配。

4(火)●全国手形交換所連合会結成。

5(水)●貯蓄債券(五円)を郵便貯金として預金可能に。

6(木)●横浜在留中国人、孔子生誕二四五五年を記念して日清懇親会開催。

7(金)●内相、各地方長官に北海道移住奨励を訓示。

8(土)●鮪・鰹一貫一円強、鯖大一尾一五銭と新聞に。

9(日)●女性一人を含む清国留学生一〇八人が横浜着。

10(月)●沙河会戦。第一・二・四軍が沙河付近で露軍主力を攻撃(~20日)。日本側死傷者二万四四九七人、ロシア側死傷者約四万人。

11(火)●北海道・国後で漁船が暴風で転覆、八人溺死。

12(水)●東京電鉄、池上本門寺会式に終夜運転。

13(木)●松山の捕虜一五人を高浜埋め立て工事に使役。

14(金)●新造戦艦四隻を待って出港が遅れていた露のバルチック艦隊が、極東に向けリバウを出発。

15(土)●小田頼造と山口孤剣が、社会主義出版物を箱車に積んで、東海道「伝道」旅行に出発。
●北海道鉄道の函館—小樽間全線開業。

16(日)●横浜正金銀行、遼陽に出張所開設を決める。

17(月)●東京の口入れ業者、求人少なく開店休業状態。

18(火)●開戦以来の赤十字派遣救護員は三三二〇人。

19(水)●神戸・大黒座が川上音二郎を迎えて落成式。

20(木)●沙河で日本軍は弾薬欠乏から攻撃中止。以後、日露両軍が沙河をはさんで対峙。

21(金)●バルチック艦隊が英の漁船を日本の水雷艇と誤認して撃沈(ドッガー・バンク事件)。

22(土)●キエフ、モスクワなどで日露戦争のための予備役召集に反対するデモが頻発。

23(日)●軍用切符発行高は二〇〇〇万円余、と新聞に。

24(月)●パリの郵便配達に自動車が登場。

25(火)●銀座・天賞堂、日露戦記念文鎮を二三銭で発売。

26(水)●第二次旅順総攻撃(~31日)。

27(木)●ニューヨークに地下鉄開通。ロンドン・パリ・ベルリンに次ぐ、世界で四番目の地下鉄都市。

28(金)●政府の推薦で韓国外務顧問に就任するスチーブンスが来日。

29(土)●九月末までの軍資献金二〇二万円余と新聞に。

30(日)●黒の山高帽が流行、三~六円五〇銭と新聞に。

31(月)●露のサガレンに漂着の漁民三人が宗谷に帰着。

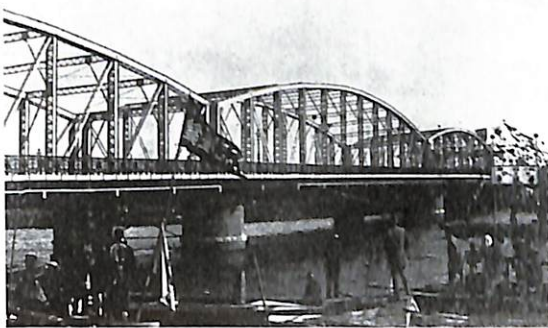
「戦時画報」

◀バルチック艦隊の大航海（11月）前月、バルト海を出航。写真はモロッコのタンジールに到着したロジェストウェンスキー司令長官（中央）。半年後、同艦隊はようやく対馬海峡に到着。

▲植村正久（46）、東京神学社を設立（11月3日）日本人による牧師育成を主張し、市ケ谷教会内に開校。後の日本神学校の母体となった。写真は植村と家族。

▲山本五十六、海軍兵学校を卒業（11月）第32期生。写真は翌年、出征直前の山本（左）。右は姉のように慕っていた長兄の長女。5月、巡洋艦「日進」に乗り組んで日本海海戦に参加した。

▶東京・両国橋新築（11月12日）隅田川に架かる17世紀中期以来の木橋が、鉄橋になった。長さ約165メートル。花火の打ち上げが行われる、江戸名物「川開き」の舞台として有名だった。

「太陽」

▲博多に日蓮銅像完成（11月9日）文永の役の激戦地跡、東公園に建立、元寇記念日に落成した。竹内久一作。台座には、日蓮が元の侵攻を予言して唱えたとされる「立正安国」が刻まれた。

▼竜土会誕生（11月）柳田国男を中心に、文学仲間が東京の仏料理店「竜土軒」で会合。前列左から2人目に島崎藤村、後列中央・柳田。自然主義の拠点となった。

明治37年 11月

1（火）●日比谷公園に和風喫茶店「三橋亭」オープン。

2（水）●社会主義協会主催の演説会に解散命令。

3（木）●政府が阪鶴鉄道に貸し下げた舞鶴線（福知山―新舞鶴）が開業。大阪―新舞鶴直通運転開始。

4（金）●外務省、韓国渡航に旅券不要と発表。

5（土）●東京府立第一中学校で韓国人留学生の入学式。

6（日）●早大図書館、日曜日に限り一般公開始める。

●初めてアラスカでの漁業に進出した日本水産の社員が横浜に帰港。

7（月）●関東一府五県森林会議、水源実地調査決める。

8（火）●米共和党のルーズベルトが大統領に再選。

●坪内逍遙、劇詩『新曲浦島』を刊行。

9（水）●日蓮宗、博多東公園に完成した元寇記念日蓮銅像前で国禱会を行う。

10（木）●第二回英貨公債一二〇〇万ポンドを募集。

●京釜鉄道全線工事完成（翌年1月1日開業）。

11（金）●浅草の一の酉にブリキ製軍艦つき熊手が登場。

12（土）●三年三ヵ月をかけ、両国橋架け替え工事完了。

13（日）●「平民新聞」がマルクス、エンゲルスの「共産党宣言」を掲載、即日発禁となる。

14（月）●大本営、第七師団の旅順投入を決定。これにより内地残留の正規師団が尽きる。

15（火）●日本石油・宝田石油が共同出資で「国油共同販売所」（本店・新潟県柏崎町）を設立。

16（水）●社会主義協会に結社禁止命令。

17（木）●陸軍、名古屋に熱田兵器製造所の設置決める。

18（金）●愛媛県今治の綿ネル会社全焼、損害四万円余。

19（土）●露の地方自治議会（ゼムストボ）の全国大会が開かれる。自由主義者、社会主義者も列席。

●婦人矯風会が呼びかけた慰問袋、この日までに一万九一五〇個集まる。

20（日）●東京の料理学校が上野で料理品評会開催。

21（月）●米労働連盟、日韓労働者排斥を決議。

22（火）●栃木県谷中村民数百人が、堤防修理請願のため県庁に押し寄せ、知事らともみあう。

23（水）●東海道線、一・二等車に寒暖計を設置。

24（木）●鹿児島・岡山などにタバコ製造所・分工場設置。

25（金）●関西鉄道と奈良鉄道が合併契約に調印。

26（土）●第三次旅順総攻撃。

27（日）●松山の捕虜二〇〇人を名古屋新収容所に移送。

28（月）●逓信省、山陽・讃岐両鉄道の合併を認可。

29（火）●ロシア各都市で、学生・労働者が日露戦争に反対し赤旗を掲げてデモ。警察・軍隊と衝突。

30（水）●衆議院、初めて党派別に議席を指定。

証言・あの日この日
堺　利彦（33）

8月15日（月）〈幸徳夫人来社。一日事務の手伝ひをして帰られた。予は夕暮に神奈川から帰つた。神奈川の加藤分院の二階は三十畳敷の大広間で、眺望がよくて、風通しがよくて、病人の保養所にも適当だが、健康者の昼寝所にもすこぶるよい。予はこの日病人の枕頭で『社会主義の大勢』を訳しをはつた〉（堺利彦『平民日記』）

「平民新聞」の発行兼編集責任者だった堺利彦は、この年4月、新聞紙条例違反で2ヵ月間入獄した。一方この頃、病床にあった堺夫人・美知子の病状がますます悪化、とうとう7月末に、社会主義者の加藤時次郎の経営する神奈川の病院に入院する。堺は、平民社に住みこんで仕事をするとともに、毎日、神奈川の病院に夫人を見舞う日々を送っていた。この日も、昼間は病院ですごした。夫人は3日後の8月18日に死去する。（山崎行太郎）

ユニフォト・プレス

▲パブロフにノーベル生理学・医学賞（12月10日）犬を使った有名な実験から「条件反射」を証明、動物の高次の神経活動を客観的に解釈した業績が認められた。後の行動主義心理学の第一歩だった。

影山智洋提供

▶「二〇三高地髷」流行（12月）束髪のひさしを張り出し、高く結ぶスタイル。日露戦争の激戦地、二〇三高地に形を似せたと言われ、占領後の戦勝ムードを反映、年齢を超えて広がった。

▼ルーズベルト大統領、新モンロー主義を強調（12月2日）「孤立主義」を超え、欧州列強に対し、西半球での米国の優越性を主張。カリブ海地域への介入を、「国際警察権力の行使」として正当化した。

CORBIS-BETTMANN／PPS

ユニフォト・プレス

▲「ピーター・パン」登場（12月27日）英劇作家・バリー原作の、永遠に成長しない少年の幻想劇がロンドンで初演。翌年、ニューヨークでアダムズ（写真）が主演。20年ものロングランとなった。

「写真画報」

▲大相撲一行、露軍捕虜を慰問（12月17日）京阪合併相撲を組織して軍隊慰問興行を続ける横綱常陸山、若嶋、大木戸、両国、駒ケ嶽らが、松山俘虜収容所を訪問。土俵入りなどを見せた。

明治37年 12月

1（木）●女性の最新ヘアスタイルは前髪を庇のように前に突き出した二〇三高地髷、と新聞に。

2（金）●ルーズベルト米大統領、「新モンロー主義」を発表。「ラテンアメリカの警察」をめざす。

3（土）●雑誌「社会主義」、「戦争と宗教」を掲載し発禁。

4（日）●大森の初海苔は一帖一一～一八銭、と新聞に。

5（月）●第三軍、二〇三高地を占領。ただちに旅順港内の砲撃を開始、八日までに露艦艇をほぼ撃沈。

6（火）●株式会社三越呉服店設立（三井呉服店の営業を継承し、21日、デパートとして開店）。

7（水）●三宅島で大火、三五〇戸中三〇〇戸余焼失。

8（木）●阪鶴鉄道谷川駅付近で列車が貨車と衝突し転覆。死者六人、負傷者一一人。

9（金）●第七回パリ自動車ショー、プジョーやベンツに人気集まる。

10（土）●露のパブロフにノーベル生理学・医学賞。

11（日）●神田明神歳の市の出店奉納金一坪五〇銭から。

12（月）●旅順港外で巡洋艦「高砂」が機雷に触れ沈没。

13（火）●東京では、餅米は一円で六升、搗き賃一二銭、時節柄、餅搗きを控える家も、と新聞に。

14（水）●大雪のため信越線軽井沢付近で列車立ち往生。

15（木）●銀座の明治屋が戦勝気分のクリスマス飾り。

16（金）●東京・芳町の芸妓三〇人余、愛国婦人会寄付の慈善演芸会。

17（土）●連合艦隊、旅順の露艦隊で最後まで残った戦艦「セバストーポリ」の沈没を確認。

18（日）●第三軍、東鶏冠山北砲台を占領。

19（月）●日本女子大の体育大会に自転車競技と新聞に。

20（火）●連合艦隊主力、旅順封鎖を解き、艦船修理のため裏長山列島を出航、呉・佐世保へ向かう。

21（水）●病院船に関するハーグ条約・最終議定書調印。

22（木）●国際委員会、ドッガー・バンク事件の調査開始。

23（金）●内国通運、鉄道小荷物配達を全量請け負う。

24（土）●生糸貿易は横浜開港以来最高の盛況と新聞に。

25（日）●使用済切符をだまし売った官鉄職員らを送検。

26（月）●歳暮用鮭は一本一円二〇銭の高値、と新聞に。

27（火）●逓信省、第二回日露戦争記念絵はがき発売。

28（水）●次年度予算は歳入約三億円、歳出約二億円、別に臨時軍事費予算追加七億円。

29（木）●バルチック艦隊主隊、喜望峰経由でマダガスカル島到着、スエズ経由艦隊到着を待ち停滞。

30（金）●東郷平八郎連合艦隊司令長官、第二艦隊司令長官らと上京、数万人が新橋駅に出迎える。

31（土）●第三軍、松樹山占領。旅順要塞攻略ほぼ完了。

我が楽多市

◀大林組の韓国・仁川支店。この頃、大林組では、竜山－新義州の京義鉄道工事の一部を受け持ち、忙しい毎日だった。
大林組提供

流行語

流行語も戦勝ムード一色に

「陥落」。酒に酔いつぶれること、遊廓に泊まること。この年は日露戦争の戦勝ムードで、流行語も戦争一色に染まった。その中で特に流行したのが「陥落」と「沈没」で、ともに同じ意味で使われた。ほかに女性を真正面から口説くことを「突貫」、口説きに成功することを「大勝利」と言った。

「海中汁粉」。意味は「陥落」「沈没」と同じ。「海中汁粉」は東京の和菓子屋「塩瀬」が売り出したお菓子で、ロシアの軍艦の形をしたものにお湯をさすと軍艦が沈没し、中から日本の国旗が現れるという趣向。このお菓子も大当たりしたが、「陥落」や「沈没」があまりにポピュラーになったため、勤め人や学生の間でひねった形で使われた。

「正宗」。この年は戦勝祈願などの旅行がさかんで、駅のホームでビールと日本酒がよく売れた。売り子は「ビールと正宗」と言うと高級な酒を売っているように聞こえて、売れ行きがいい。そこで、安酒しか売っていなくても「正宗」を連呼、これが転じて、安酒のことをわざと「正宗」と呼ぶことが流行した。

▶これまでは馬車だったパリの郵便配達に、この年初めて、自動車(写真)が登場。

食

パセリやレタスが普及 戦争のもうひとつの影響

日露戦争によって携帯食や保存食の研究が進むのと同時に、一般の人の間で弁当を持参する習慣が普及した。この時期に、弁当として特に推奨されたのがサンドイッチで、新聞や雑誌では上等なバター、練り辛子、塩、胡椒などを用いた本格的な作り方が、次々に紹介された。それにつれてマヨネーズの需要も広がり、パセリやレタスなどの西洋野菜、ナツメグなどの香辛料も、それほど特殊なものとしてではなく用いられるようになった。

(昭和女子大学食物学研究室『近代日本食物史』)

文化

戦争に勝つと貸し本屋が不振!?

日露の交戦以来、その影響を受けないものはないが、その中でも打撃を受けて、不振の悲況を呈しているのが貸し本屋である。交戦以来、読書家の目はもっぱら戦局に注がれ、新聞や戦争雑誌を歓迎するため、従来貸し出し好調だった探偵小説、復讐物などはほとんど半分以下となり、とりわけ職工や一般労働者に多かった侠客、義賊などの講談物は借りる人が皆無となった。ただ村井弦斎の小説類に、あいかわらず女性の借り手があるだけという。

(「東京朝日新聞」五月三〇日)

交通

社内禁煙や迷惑防止は東京の市内電車から

東京電気鉄道および東京市街鉄道(ともに市内電車)では、しばしば電車内で喫煙したり、痰や唾を吐くものがあり、ほかの乗客はこのために非常な迷惑をこうむっているだけでなく、衛生上もきわめて有害であった。

そこで両社とも、昨日からその筋の注意によって、乗客に対して車内での喫煙と痰や唾を吐くことを厳禁し、そのむねを車内に掲示した。

(「時事新報」二月一九日)

▲竹久夢二画「強制された愛国心」。美人画の画家として名高い夢二が描いた反戦マンガ。「平民新聞」1月17日付に掲載。 日本漫画資料館提供

CM100年 新聞CM「九重糯子」(外村商店)

▲広告に図案を大きく取り入れ、「大阪朝日新聞」の第1回意匠奨励広告に当選したもの。その後、文案中心だった当時の新聞広告が一新された。

三面記事

駅弁屋が考えた団体旅行

〔大津発〕日本で鉄道による団体旅行が始まったのは明治三七年七月のことで、そのパイオニアこそ滋賀県草津町の南新助氏である。

南さんは東海道線草津駅前で、先代から駅弁屋をいとなんでいた。駅頭に立ってみずから駅弁を売ったこともあるが、「汽車を利用した新しいアイディアはないか?」と、駅弁を売り売り考えたのが団体旅行で、南さんがちょうど二〇歳の時であった。

さっそく、草津駅長など関係者に相談、善光寺から東京、日光見物のコースを七日間、一二円八〇銭として設定、半紙に募集広告を書いて草津、大津とその近村に貼ったところ、四〇〇人の予定が九〇〇人も集まった。そこで南さんが善光寺をはじめ行く先々へ通知を出したところ、九〇〇人もの団体が来ることを信じてもらえず、善光寺からはお坊さんがわざわざ真偽を確かめに来たほど。また中央の役所も計画にびっくり、裏によからぬ企みがあってはいけないと、暑い最中、事務官が出張してきて、全コースついてまわった。

一方、団体客を迎えた町も大変な騒ぎで、アーチを作ったり、花火を打ち上げたり、音楽隊の演奏で出迎えるなど、参加者はまるで日露戦争の凱旋将軍のような気分だったという。

(「サンデー毎日」昭和一〇年一〇月六日号)

◀この年七月、横浜電気鉄道が開通。その後、線路を延ばし、大正一二年には環状線に。写真は本牧線の終着駅、本牧原。

はやり歌

日本陸軍

作詞 大和田建樹
作曲 深沢登代吉

出陣

天に代りて不義を討つ
忠勇無双のわが兵は
歓呼の声に送られて
今ぞ出で立つ父母の国
勝たずば生きて還らじと
誓う心のいさましさ

毎日新聞社
▲軍艦名を歌詞に折りこんだ「日本海軍」の流行を追って作られた陸軍の歌。出征兵士の見送りの歌にもなった。

斥候

あるいは草に伏し隠れ
あるいは水に飛び入りて
万死恐れず敵情を
視察しかえる斥候兵
肩に懸かれる一軍の
安危やいかに重からん

工兵

道なき方に道をつけ
敵の鉄道うち毀ち
雨と降りくる弾丸を
身に浴び乍ら橋かけて
わが軍わたす工兵の
功労なににか譬うべき

軍神橘中佐

作詞 鍵谷徳三郎
作曲 安田俊高

遼陽城頭夜は闌けて
有明月の影すごく
霧立ちこむる高粱の
中なる塹壕声絶えて
目醒めがちなる敵兵の
肝驚かす秋の風

我が精鋭の三軍を
邀撃せんと健気にも
思い定めて敵将が
集めし兵は二十万
防禦至らぬ隈もなく
決戦すとぞ聞こえたる

毎日新聞社
▲明治37年8月に遼陽の会戦で壮烈な戦死をとげ、広瀬中佐とともに軍神とされた橘中佐をたたえた歌。写真はその遼陽の会戦の様子。

文化

「わが国いかで、安からん」森鷗外作詞の軍歌

文壇では鷗外の名をもって知られる医学博士・森林太郎は、軍医監として出征の途次、広島において「第〇軍の歌」という軍歌を作り、刷り物として軍隊および知友に配布した。その句は次のとおりである。

海の水こごる、北国も、春風いまぞ、吹きわたる、三〇〇年来、跋扈せし、ロシヤを討たん、時は来ぬ(中略)鉄道北京に、いたらん日、支那の瓦解はまのあたり、韓半島まず、滅びなば、わが国いかで、安からん。本国のため、君がため、子孫のための、戦いぞ、いざ押し立てよ、連隊旗、いざ吹きすさめ、ラッパの音(後略)

(注・第〇軍は奥保鞏大将の第二軍をさす)

(「都新聞」四月一九日)

海外

二匹で五〇〇〇ドル 大富豪の虱収集

〔シアトル発〕イギリスの有名な富豪、チャールズ・ロスチャイルド氏は、世界各地からあらゆる虱を収集して研究中とのことであるが、いまだ北極産の狐の虱ばかりは手に入らず、何とかこれを入手したいと熱望していた。

その話を伝え聞いたシベリア北部の、ある会社の代理人でバーバーなる人物が、北極産の狐から苦心して二匹の虱を捕え、これをロスチャイルド氏に五〇〇〇ドルで売り渡すため、シアトルから渡英の途についた。

(「大阪朝日新聞」一〇月二三日)

この年の初もの

初めの名は「練習帳」大阪でノート発売

●**クリームパン** 中村屋の相馬黒光が、シュークリームからヒントを得て考案。
●**洋風和式便器** 二月、愛知合資会社が、インドの便器を見本に製作。洋風小便器もこの年登場。
●**国産ダイナマイト** 群馬県の陸軍岩鼻火薬製造所で試作開始。
●**アメリカの仏教寺院** ロサンゼルスに浄土真宗のお寺ができる。住職はイズミダ・リンガン。
●**ティー・バッグ** ニューヨークの喫茶店経営者、トーマス・サリバンが考案。

▶小学生の模擬戦。日本軍とロシア軍にわかれて日露戦争ごっこ。最後に勝つのは日本軍と、決まっていたことだろう。

世界の動き

「彼の前では、ほかの投手にできることは二位になることだけだ」三振八、フライ一〇、内野ゴロ九――サイ・ヤング、初の完全試合達成！

▲1904年5月5日、完全試合を達成したサイ・ヤング。「サイ・ヤング賞」にその名を残す。1867年3月29日生まれ、右投右打。 CORBIS-BETTMANN／PPS

◀チーム・メイトが見守る中で投球練習をするサイ・ヤング。ナインの彼に寄せる信頼は厚かった。
ARCHIVE PHOTOS

一九〇四年五月五日、ボストン・レッドソックスのエース、サイ・ヤングが大リーグ初の完全試合を達成した。これは、マウンドと本塁間の距離が約一八㍍に決められた近代野球になって最初の快挙である。以後九〇年余り、大リーグでは一五人しかヤングに続く投手は出ていない。

尻上がりの好調さで強打線を寄せつけず

中堅手のグラブの中にボールがおさまったその瞬間、一万二六七人の観衆がどっと歓声をあげ、次の瞬間、グラウンドになだれこんだ。歴史的な一球をつかんだ外野手が駆け寄って、そのボールを手渡すまで、サイ・ヤング（三七）は自分が球史に残るどでかい仕事をやってのけたことに気づいていなかった。しかし、たちまち、ファンの手でヤングの肩車が始まった。

一九〇四年五月五日、前年に史上初のワールドシリーズ・チャンピオンに輝いたボストン・レッドソックスは、本拠地にフィラデルフィア・アスレチックスを迎え撃った。相手先発投手は、〝剛腕〟ループ・ワッデル（二八）。この年、一試合一六奪三振、シーズン三四九奪三振の大リーグ記録を樹立するという全盛期を迎えていた「ドクター・K」である。しかも、前回の対戦で一安打完封で勝利をあげていた。一方のレッドソックスはサイ・ヤング。

両エースの先発で、試合は投手戦が予想されたが、レッドソックスが押し気味に試合を進めた。試合が動いたのは、六回。三番、四番の連続三塁打でレッドソックスが先取点をあげる。続く七回、下位打線が奮起して、七番、八番の連続長打と相手内野手のエラーで二点を追加。

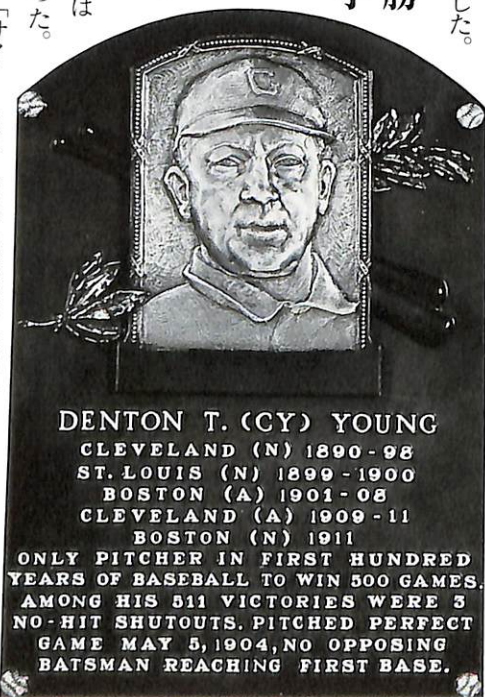
この日のヤングには、この三点は十分すぎるプレゼントだった。強打のアスレチックス打線も三振を重ね、内外野に平凡な打球を飛ばすのみ。三回、テキサス安打になりそうな打球がライトを襲ったが、右翼手の好守でことなきを得た。さすがに後半に入ると、完全試合を意識して観客席がざわついてくる。ヤングの投球は尻上がりに調子がよくなり、この日の八つの三振のうち五つを後半の四イニングに奪う。速球と落差の大きいカーブが面白いように決まり、アスレチックス打線は完全に沈黙。身長一八八㌢、体重九五㌔の巨漢・ヤングは、まさにマウンドに仁王立ちしていた。

九回表、観客は一球一球に固唾（かたず）を呑んだ。球審の手が上がり、先頭打者はあえなく三振。球場全体を大歓声が包む。次打者はあっけなく遊ゴロに倒れ、二七番目の打者は投手のワッデル。初球ボール、二球目空振り、そして三球目……打球はセンターに上がり、わずかにバックした中堅手のグラブにおさまった。スコアブックには三振八、フライ一〇、内野ゴロ九、アウト二七が記録された。試合時間は一時間二五分。翌日の「ニューヨーク・タイムズ」は「ヤング、フィラデルフィア完封。ノーヒット、ノーラン」の見出しのもと、「誰にも一塁を踏ませなかった大リーグ初の快挙」とスポーツ面トップで報じた。

通算五一一勝 伝説的大投手

オハイオ生まれのサイ・ヤングこと、デントン・トゥルー・ヤングがクリーブランド・スパイダースに入団したのは一八九〇年のことだった。その速球の速さから「サイクロン」（大竜巻）を略して「サイ」と呼ばれるようになった二三歳の長身の若者は、大リーグデビューを無四球・三安打、八対一の勝利で飾った。この年こそ九勝七敗で終わったが、翌年二七勝をあげ、大投手の道を歩み始める。

一九〇一年にボストン・レッドソックスに移籍、一九一一年にブレーブスで二二年間の野球生活に終止符を打ったその球歴は、「彼の前では、ほかの投手にできることはナンバー・ツーになることだけだ」と評されるほど輝かしい。通算七三五六イニングを投げ、七五〇完投、五一一勝三一六敗。そのどれもが歴代一位、彼に続く勝ち星はウォルター・ジョンソンの四一六勝だから、いかに彼が偉大か

▶サイ・ヤングの記念碑。完全試合の記録も刻まれている。
ARCHIVE PHOTOS

NATIONAL BASEBALL HALL OF FAME LIBRARY／デジタルハウス

▲サイ・ヤングのサインボール。1901年に33勝、翌2年が32勝、3年が28勝と3年連続で最多勝を獲得する。

ロシアをめぐるポーランド社会主義者と日本帝国の〝幻の連携〟

――佐伯 修

日露開戦以来五ヵ月後の、この年七月、ロシア支配下のポーランドで独立をめざす「ポーランド社会党」幹部二人が、米国経由でひそかに来日した。その一人、ヨーゼフ・ピウスツキ（一八六七〜一九三五）は、日本陸軍参謀本部と外務省に示した「覚書」の中で述べている。

「（ロシア領内の）非ロシア人諸民族の間では、日本の初期の勝利は志気を高揚させ、従来にまして積極的な攻勢へと向っている」「こうした状況はその自然の帰結として、日本とポーランドとの同盟へと導く」（阪東宏『ポーランド人と日露戦争』より）

ピウスツキは、ロシア軍兵士として捕虜となっているが、ロシア軍を脱走したポーランド人兵士からなるポーランド人部隊を、日本の手で編成するための具体的な提案も行う一方で、同時に、自分たちと日本との間に存在する〝溝〟をも認識していた。

「強国ロシアを弱体化させ、打破することは日本とポーランドに共通の利益である……ただし利益の共通性とともに双方の政治方針には若干の相異が認められる」「日本にとっては戦争の早期終結が求められるのに対して、ポーランドは戦争が長期化し、できる限りロシアの弱体化が進み、ポーランドの革命勢力の力が蓄積され、戦いに向けてよく準備される時間が必要である」

▶独立後、「我らの司令官」の愛称で親しまれた。

日露戦争下、ロシア国内の反政府勢力や、ポーランド、フィンランドなどの独立運動を煽動し、ロシアの弱体化をはかる工作が、陸軍の明石元二郎大佐らによって行われたことが知られている。また、ポーランド社会党などは進んで宗主国の敵＝日本との提携を画策した。しかし、日本側としては、ピウスツキら社会主義者グループと接触する一方で、彼らと対抗する「ポーランド民族連盟」とも連絡をとっていた。

結果的に、ポーランド人部隊創設の形の、同国の社会主義者と日本帝国の連携は幻に終わった。だが、ピウスツキは、第一次世界大戦が勃発すると、ロシアと戦う名目でオーストリアに「ポーランド軍団」を創らせ、ロシア側にいた同志らと呼応して、これを強力なパルチザン部隊に育てあげる。そして、領土問題から侵攻して来たソビエト赤軍をも撃退して念願の独立を達成、ボルシェビズムともファシズムとも一線を画した政策を実施した。

なお、ヨーゼフの兄、ブロニスワフは、反政府運動での流刑先、ロシア領サハリン（樺太）で、アイヌ、ウィルタらの民族調査を行い、明治三七、三九年の二度来日している。

わかる。二〇勝以上一六回、完全試合を含む三度のノーヒット・ノーラン、三年連続通算四回の最多勝と、栄光は数知れない。その陰には、オフシーズンには農園で木を切ったりするなどの重労働をいとわず、体調管理に細心の注意を払ってきた精進と、それに支えられた故障知らずの頑健な肉体があった。

一九九八年のヤンキースのデービッド・ウェルズまで、大リーグでは一二人の投手が完全試合の快挙をなしとげている。日本のプロ野球では、昭和二五年の巨人・藤本英雄以来、平成六年の巨人・槙原寛己まで一五人が達成。面白いのは、「完全試合男」がかならずしも大成していないことだ。本当の意味でエースと呼べる投手は大リーグではサイ・ヤングと六〇年代に活躍したドジャースのサンディ・コーファックス、日本では藤本、四〇〇勝投手の金田正一、広島のエース・外木場義郎ぐらい。ほかは、完全試合で燃え尽きてしまったのか、さしたる成績を残さぬまま引退しているケースが多い。

数々の投手の勲章に完全試合をつけ加えたサイ・ヤングは、真の大投手であった。

ヤングは一九五五年に世を去ったが、彼の功績をたたえて翌年「サイ・ヤング賞」が創設される。ベテラン記者の投票でその年の両リーグの最優秀投手に与えられるこの賞は、大リーグの投手にとって最高の栄誉と言われている。

「サイ・ヤングは、大リーグ初期の伝説的な大投手です。当時としては大きくてがっしりした身体から投げおろす、真っ向勝負の力投型だったんでしょうね。完全試合をするぐらいだから、コントロールもよかったことは間違いない。でも、持ち味はあくまで速球でぐいぐい押していくところだったと思います。現代の大リーガーでは、ロジャー・クレメンス。一試合二〇奪三振を二回も達成しているクレメンスが、サイ・ヤングのイメージに最も近いと思っています。もちろん、彼も『サイ・ヤング賞』に輝いています」

こう語るのは、大リーグに詳しい野球評論家の伊東一雄氏である。

サイ・ヤング（1867〜1955）
一八九〇年球界入り。スパイダース、レッドソックスなどでエース。一九一一年引退。通算五一一勝。一九五六年に、「サイ・ヤング賞」が創設される。

▲1936年、野球殿堂が設立され、殿堂入りした名選手たちが顔をそろえた。前列右端がサイ・ヤング、右から3人目がベーブ・ルース。 NATIONAL BASEBALL HALL OF FAME LIBRARY デジタルハウス

往きて還らぬ

▲1月2日　近衛篤麿（40）
政治家。明治28年学習院院長、翌年貴族院議長。アジア主義者で、31年東亜同文会を組織。相撲好きでも知られる。

平凡社提供

▲1月27日　4代目三遊亭圓生（57）
落語家。明治15年4代目を襲名。軽妙な芸風で「みいら取り」など廓話を得意とし、三遊派の中心として活躍。

▲2月3日　田口和美（64）
医学者で、日本の近代解剖学の創始者。明治9年東京医学校の初代解剖学教授、26年日本解剖学会の初代会頭となる。

▶4月13日　斎藤緑雨（36）
小説家。日刊紙「万朝報」などに評論も執筆。代表作に小説『油地獄』、評論『三人冗語』（森鷗外らと共著）。

▲5月1日　A・ドボルザーク（62）
チェコの作曲家。民族風の作品「交響曲第9番（新世界より）」で有名。プラハ音楽院院長をつとめ、葬儀は国葬。

上野一郎／産能大学所蔵

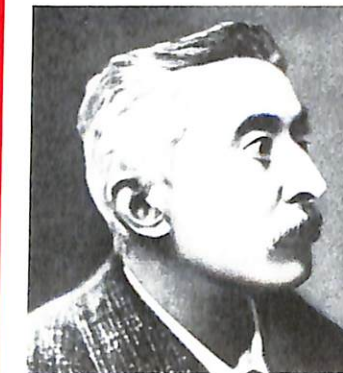
◀5月22日　上野彦馬（65）
日本写真術の開祖の一人。文久二年（一八六二）長崎で写真撮影局開業。著書に最古の化学紹介書『舎密局必携』。写真右端。

▲5月27日　永山武四郎（66）
陸軍軍人、中将。明治5年北海道開拓使となり、開拓・屯田に従事。18年屯田兵本部長、21年北海道庁長官も兼任。

▲5月28日　乃木勝典（24＝左）
11月30日　乃木保典（22＝右）
軍人。陸軍大将・乃木希典の息子。勝典は陸軍歩兵中尉、保典は同少尉で日露戦争に出兵、二人とも戦死。

▲7月15日　A・チェーホフ（44）
ロシアの作家。ユーモア小説でスタート、後に戯曲「三人姉妹」（1901年）、「桜の園」（1904年）などを生んだ。

▲8月7日　初代市川左団次（62）
歌舞伎俳優。元治元年（1864）左団次を名乗る。河竹黙阿弥の作品で人気を博し、明治26年明治座創設、座頭に。

▲8月12日　川村純義（67）
軍人。海軍創始期の首脳で、明治11年海軍卿となり、薩摩勢力を重用した。枢密顧問官などを歴任、死後大将に。

▲9月26日　小泉八雲（L・ハーン）（54）
小説家。明治23年来日、後に帰化。小説『怪談』などを著し、日本を世界に紹介。東京帝大講師などもつとめた。

PPS

▲10月4日　F・A・バルトルディ（70）
フランスの彫刻家。ニューヨークの「自由の女神像」（1886年完成）で知られ、ほかに「ベルフォールの獅子」など。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第85号 10月27日(火)発売 定価560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1905［明治38年］

●特集
「本日天気晴朗なれども浪高し」 日本海海戦で連合艦隊大勝利！／「賠償金ゼロ」のポーツマス講和 三万人が暴発した日比谷焼き打ち事件！／反響騒然、掲載誌完売！ 夏目漱石が「吾輩は猫である」発表／ロシア黒海艦隊の旗艦で水兵が蜂起 戦艦「ポチョムキン」の叛乱！
●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…露・ペテルブルグで「血の日曜日事件」（1月22日）／日本軍、奉天占領（3月10日）／アインシュタイン、「特殊相対性理論」完成（6月30日）／「桂・タフト覚書」交換（7月29日）／日本軍、樺太占領（7月31日）／関釜連絡船、就航（9月11日）／第二次日韓協約調印（11月17日）
●人物クローズアップ
喜田貞吉、法隆寺「再建」を主張！
●決定的瞬間
ウィルヘルム二世、タンジール上陸の恫喝！
●美の出会い
北沢楽天、マンガ誌「東京パック」創刊
●女たちの肖像…「堀江六人斬り」妻吉の“無手の法悦”／勝者・敗者…早稲田野球部、初の海外遠征の土産／証言・あの日この日…高橋是清、正宗白鳥／「現場」を歩く…東吉野村とニホンオオカミ生息説／20世紀博物館…交通博物館（東京）／外から見たNIPPON…ロシア軍捕虜の妻と戦時下の日本人
●ベストセラー…上田敏『海潮音』／スターと名場面…メリエス「月世界旅行」／モノ語り'05…「赤大粒仁丹」

■既刊好評発売中（既刊84冊！ 1910・1920・1930・1940・1950・1960・1970・1980年代がそろいました）

一九二〇年代
第62号1921［大正10年］ 第63号1922［大正11年］ 第28号1923［大正12年］ 第64号1924［大正13年］ 第65号1925［大正14年］ 第66号1926［昭和元年］ 第67号1927［昭和2年］ 第68号1928［昭和3年］ 第69号1929［昭和4年］ 第70号1930［昭和5年］

一九三〇年代
第43号1931［昭和6年］ 第44号1932［昭和7年］ 第45号1933［昭和8年］ 第46号1934［昭和9年］ 第47号1935［昭和10年］ 第48号1936［昭和11年］ 第49号1937［昭和12年］ 第50号1938［昭和13年］ 第51号1939［昭和14年］ 第52号1940［昭和15年］

一九四〇年代
第19号1941［昭和16年］ 第20号1942［昭和17年］ 第21号1943［昭和18年］ 第22号1944［昭和19年］ 第3号1945［昭和20年］ 第23号1946［昭和21年］ 第24号1947［昭和22年］ 第25号1948［昭和23年］ 第26号1949［昭和24年］ 第27号1950［昭和25年］

一九五〇年代
第36号1951［昭和26年］ 第37号1952［昭和27年］ 第38号1953［昭和28年］ 第39号1954［昭和29年］ 第40号1955［昭和30年］ 第41号1956［昭和31年］ 第42号1957［昭和32年］ 第6号1958［昭和33年］ 創刊号1959［昭和34年］ 第11号1960［昭和35年］

一九一〇年代
第79号1919［大正8年］ 第80号1920［大正9年］

一九〇〇年代
第81号1901［明治34年］ 第82号1902［明治35年］ 最新刊 第83号1903［明治36年］

■今後の刊行予定
▶第86号1906［明治39年］11月2日発売
「満鉄」が育てた“頭脳集団”●「松山収容所」抑留記●「成金」第1号・鈴久●「ドレフュス事件」、無罪確定！
▶第87号1907［明治40年］11月10日発売
オーレル・スタイン、敦煌を探検●「華族令」改正●明治期最大「足尾暴動」！●「ハーグ密使事件」の暗転！
▶第88号1908［明治41年］11月17日発売
清朝最後の独裁者・西太后死す！●第1回ブラジル移民●「味の素」製造開始！●「ツングースカ大爆発」
▶第89号1909［明治42年］11月24日発売
伊藤博文暗殺！●生糸“世界一”と「女工哀史」●渋沢栄一「引退宣言」の衝撃●「北極点征服」大論争
▶第90号1910［明治43年］12月1日発売
「韓国併合条約」調印！●「大逆事件」のでっちあげ！●“千里眼”のカラクリ●「ハレー彗星大接近」パニック
▶第91号1991［平成3年］12月8日発売
雲仙普賢岳、恐怖の大噴火！●「湾岸戦争」勃発●続発！ 金融犯罪と“闇の紳士”●「ソ連邦」消滅！

ミニ事典

1904年のキーワード

ヘレロ族
オレンジ川以北の南西アフリカに住む、遊牧・狩猟民族。かつては「ホッテントット族」とも呼ばれた。南西アフリカは一八八四年にドイツ支配下となり、ヘレロ族は白人入植者による食糧・土地収奪に苦しんだ。この年一月一二日、ついに最高首長・マハレロの指揮のもと反乱を起こしたが、独軍の無差別殺戮で、一〇月までに約八万人の人口の八割を失い、残りもカラハリ砂漠に追いやられた。

▶ドイツ軍パトロール隊。欧州列強は植民地獲得のために、人道を無視した。

旅順港閉塞
ロシア太平洋艦隊基地・旅順港の封鎖をねらった連合艦隊の作戦。石やセメントを詰めた老朽商船を、夜陰に乗じて航路に沈めようとした。二月二四日に第一回、三月二七日に第二回、五月三日に第三回目を実施したが、十分な効果をあげることができなかった。第二回目には、行方不明になった部下の杉野兵曹を探そうとして、広瀬武夫少佐（後に中佐）が戦死、「軍神」美談を生んだ。

呉市企画部海事博物館推進室提供

▲閉塞作戦で自沈した船舶。手前は「報国丸」。旅順占領後の明治38年2月撮影。

「嗚呼増税」
議会の増税案通過を批判した、「平民新聞」三月二七日付社説のタイトル。「苛重なる増税よ、是れ実に『戦争の為め』なるべし」として戦争を公然と非難、「野心ある政治家之を唱え、功名に急なる軍人之を喜び、狡猾なる投機師之に賛し」などと記したため、新聞は発売禁止、発行兼編集人だった堺利彦は軽禁固二ヵ月の処分を受けた。

ロンドン交響楽団
イギリスを代表する管弦楽団。ロンドン・シンフォニー・オーケストラ。六月に第一回演奏会を行った。常任指揮者は、ウィーン交響楽団・ハレ管弦楽団などで活躍してきたハンガリー人、ハンス・リヒター。リヒターは七年後に辞任。その後、常任指揮者をおかなかったが、第二次大戦後、アンドレ・プレビンらを音楽監督にした。昭和三八年に初来日。

専売タバコ
国家によるタバコの独占的製造および販売。日清戦争後の財政需要の増大に対処するため、明治三一年に葉タバコの専売が実施されたが、日露戦争の戦費調達のため、最終製品にまで範囲が拡大された。七月一日、「敷島」八銭、「大和」七銭、「朝日」六銭（口つき二〇本入り）、「スター」七銭、「チェリー」六銭（両切り一〇本入り）など七種を発売、翌年、これに刻みタバコが加わった。

シベリア鉄道
シベリアを経てヨーロッパ・ロシアと極東地方を結ぶ大陸横断鉄道。七月、バイカル湖を迂回する線路が完成し、着工以来十余年ぶりで、モスクワ―ウラジオストク間八三一四キロが全通した。鉄道建設の目的は、シベリア地方の植民・開発と極東への軍事輸送力強化。日露戦争勃発で工事は急ピッチで進められ、数十万の兵士と大量の武器・弾薬を運ぶ軍用鉄道として利用された。

「日露戦争論」
ロシアの文豪・トルストイが、「ロンドン・タイムズ」に寄稿した日露戦争批判。八月七日付「平民新聞」が幸徳秋水の翻訳で転載。「戦争は又もや起れり。見よ天涯地角数千哩を隔てし人類、而も其人類の数十万人（一方は一切殺生禁断を旨とせる仏教徒、一方は四海兄弟と愛とを広言せる基督教徒）は、今や極めて猛悪なる方法を以て、互に残害殺戮をたくましくせん。嗚呼是れ何事ぞや」などと慨嘆した。

▶トルストイ。その思想は、「人類の良心」として全世界に影響を与えた。

日本住血吸虫
人などの門脈系に寄生する寄生虫。八月一三日、岡山医学専門学校教授・桂田富士郎が、山梨県の流行地のネコの門脈から雄虫を発見。学士院賞を受賞する桂田の代表的業績となった。合体した雌雄が腸壁に産卵。排出された虫卵は、カタヤマガイを中間宿主として成育し、田や川などの水中を遊泳、皮膚から体内に侵入する。寄生されると発熱、腹痛、貧血などを起こす。日本では今日、患者の発生はほとんど見られない。

ラサ条約
英国がチベットに対し、通商の門戸開放と権益の独占を認めさせた条約。九月七日、英国・インド混成軍が首都・ラサに侵入、英国との交渉を避けてきたチベットを、調印の場に引き出した。一八世紀以来、チベットには南下を国是とするロシアが接触、一九〇一年にはダライ・ラマのペテルブルグ訪問が実現し、後発の英国は危機感を深めていた。

「自決するより生きて捕虜となれ」
早稲田大学教授・浮田和民が九月一八日、東京市教育会での講演「日露戦争と教育」の中で言った言葉。歌人・与謝野晶子が出征中の弟を歌った「君死にたまふこと勿れ」と同様、論議を呼んだ。日露戦争に対する国民の非難・厭戦気分は強く、政府はこれらに対応する発言・運動を、「愛国者」やマスコミを通じて封じ、「ロシア討つべし」の戦争気分へ国民を駆りたてていった。

ドッガー・バンク事件
一〇月二一日、英国とデンマークの間にある漁場、ドッガー・バンクで、ロシアのバルチック艦隊が英国の漁船を日本軍水雷艇と誤認、一隻を撃沈し、多数に損害を与えた事件。バルチック艦隊は、旅順港の太平洋艦隊を支援するため出航した矢先で、急造艦隊の欠点をはからずも露呈した。英国が国際裁判所に訴えたため、スペインでの待機を余儀なくされ、二九日、ようやく解放された。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀1904 CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーション
ハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展
藤森雅弘 森邦久 結城順一 吉田忠正
●写真協力
今村正男 上野一郎 太田公平 影山智洋 北川太一 小森谷信治
但馬一憲 中村統太郎 バートン・ホームズ 松田誠 山口隆司
ARCHIVE PHOTOS オリオン・プレス CORBIS
BETTMANN デジタルハウス PPS 平凡社 毎日新聞社
マツダ映画社 文殊社 ユニフォト・プレス
大林組 東芝 松屋 三越 三菱重工業
五十嵐健治洗濯資料館 茨城県天心記念五浦美術館 がす資料館
京都府立総合資料館 呉市企画部海事博物館推進室 三康図書館
産能大学 たばこと塩の博物館 逓信総合博物館 東京芸術大学大学美術館 東京女子大学 東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫
東洋大学井上円了記念学術センター 日仏会館図書室 日本玩具資料館 日本近代文学館 日本大正村 日本漫画資料館 野口英世記念会 福富太郎コレクション 三笠保存会 水島衣裳雑貨博物館
明治大学 夕張市石炭博物館 UCLA